

# 中等教育における体育・スポーツの変遷と発展について (尾道市内高等学校の開校から今日まで)

平 松 携

## 1 戦前の運動活動

戦前に開校したのは、尾道商業学校、尾道高等女学校、尾道中学の3校である。運動会は、3校とも創立後の早い時期に開催している。このことから運動会は学校教育の範疇で重要な行事の一つであった。寒中稽古は、3校とも1月の寒期に武道の寒稽古を10日間程実施している。寒中稽古は、心身の鍛練を目的にしたもので3校とも学校教育で価値ある行事の一つであった。

3校の運動の特長ある行事をみると、尾道商業学校は大遠泳であった。尾道高等女学校の運動は女性らしいバレーボールとテニスに人気があった。尾道中学校は、毎週、尾道中学から千光寺まで3キロメートルのマラソン、月に1度の10キロメートルのマラソン、年に1度の18キロメートルのマラソンであった。

## 2 戦前から体操・体練から今日の保健体育へ

尾道高等女学校の教科をみると、開学からの昭和17年まで体操科、昭和18年から21年まで3年間の教練、戦後の昭和22年から23年の2年間の体育、24年から今日までの保健体育と変遷してきた。

## 3 戦後の運動部の活躍

広島県高等学校総合体育大会の団体優勝、総合優勝を学校別にみると、各校が運動部の隆盛が読み取れた。昭和20年代は尾道北高等学校の独占から、昭和30年代は尾道商業高等学校の独壇場と移った。昭和40年代以降は尾道高等学校の黄金時代となっていった。広島県高等学校野球連盟で甲子園に尾道商業高等学校が7回出場し、準優勝2回を数えた。また、尾道高校の水泳男子は全国大会、国際大会で優秀な成績を残した。昭和20年代と30年代において、好成績をあげた運動部指導教員は、母校に赴任し指導した教員が多かった。

キーワード：中等教育、尾道市内、体育・スポーツ、変遷、発展

## 目 次

- I 学校の開校と研究目的
- II 戦前中等教育の身体活動から
  - 1 戦前における各校の運動会
    - (1) 尾道商業学校の運動会
    - (2) 尾道高等女学校の運動会
    - (3) 尾道中学校の運動会
  - 2 寒中稽古
    - (1) 尾道商業学校の寒稽古
    - (2) 尾道高等女学校の寒稽古（弓道）
    - (3) 尾道中学校の寒稽古（柔道、剣道）
  - 3 尾道商業学校の大遠泳
  - 4 尾道高等女学校のバレーボール
  - 5 尾道中学校のマラソン・中国駅伝
- III 戦前の体操から戦後の保健体育へ
  - 1 尾道高等女学校から今日の尾道東高等学校の教科の変遷
  - 2 尾道高等女学校の開校から 100 年間の保健体育担当教員
- IV 戦後の運動部活動
  - 1 広島県総合体育大会優勝校の変遷
  - 2 尾道商業高等学校の野球部の活躍
  - 3 尾道高等学校の水泳部の活躍
  - 4 各高等学校の運動部の活躍
- V 終わりに

### I 学校の開校と研究目的

旧尾道市内の中等教育機関は、戦前では広島県立尾道商業学校、尾道市立・広島県立尾道高等女学校、広島県立尾道中学校の3校があった。戦後の教育改革によって、広島県立尾道商業学校から広島県立尾道商業高等学校（尾道商業高等学校）、広島県立尾道高等女学校から広島県立尾道東高等学校（尾道東高等学校）、広島県立尾道中学校から広島県立尾道北高等学校（尾道北高等学校）に改称して今日に至る。戦後に学校法人尾道高等学校（尾道高等学校）、広島県立尾道工業高等学校（尾道工業高等学校）が開校して5校となった。戦前の中等教育（3校）から戦後の後期中等教育（5校）を通じての研究であることから、ここでは便宜上、

中等教育と仮称することにする。

開校は尾道商業高等学校、尾道東高等学校、尾道北高等学校、尾道高等学校、尾道工業高等学校の順であることから、開校順に構成する。学校の創立目的や教育目標等をみる。

尾道商業学校は、1982（明治15）年時の縣令（知事）千田貞曉が縣下の商業振興をはかるにはまずその中堅養成のため商業学校を興すにありとしてこれが教育擔任者を養成するため、東京商業学校（現一橋大学）に貸費生を送った。1回の貸費生の市邨芳樹は1887（明治20）年歸省し、協力者の援助を得て1888（明治21）年尾道商業学校を開校した<sup>1)</sup>。

港町として、古い歴史を持ち、当時も港を持つ商業都市として栄えていた尾道市は、市制10周年記念事業として、1909（明治42）年4月、尾道市立高等女学校が開校した。尾道高等女学校の教育理念は、明治以後の女子教育の理念である「良妻賢母」を目指した。2代目校長の杉野三次郎は、「徳智体三育に就て」へ論を進める。独乙（ドイツ）式の教育のように智育いう第一に置くのではなく、現在の教育の知育偏重革命のためには「徳体智の順序を似て要旨とせり。」「敢えて軽重を付するものに非ざれども」と断つてのことであるが。この考えは尾道に来てからの生徒の実態をみて生まれたものという。1921（大正10）年広島県立尾道高等女学校と改称した<sup>2)</sup>。

尾道市内男子の進学は、中学校に進学するには福山か忠海まで行くほかになかった。尾道中学の開校は、尾道市当局や尾道市民の熱心な運動の賜であった。全国的に教育水準の要求が高まる中で中等学校の開設が相次いでいた。尾道中学校もその一環の流れのなかで創設された。1925（大正14）年尾道中学校は開校した。初代吉本校長は、開校初年度の5月に「至誠一貫」の校是を制定、厳しく指導した。「至誠一貫」を尾道中学校の教育の方針とし、学校長職員協力一致修養に努め、実践躬行身を以て生徒に範を示して、之を薫化教導し、生徒亦自発自奮善良なる校風を作興し、以て国家有為に人物たらんと期するところに本校の使命がある。至誠は「まごころ」である、真面目である、良心である。至誠は実にすべての徳行の本である<sup>3)</sup>、としている。

尾道高等学校は、1957（昭和32年1月）年に広島県から広島県尾道高等学校設立許可が下り4月に尾道高等学校が開学した。教育方針は、「郷土の興望に臨み真理に忠実にして自由と調和と秩序を愛し健康にして教養豊かな民主的社會の形成者たるにふさわしき資質も啓培しその個性を暢達せしめ併せて職業的能力も伸長せしむにある<sup>4)</sup>」。

尾道工業高等学校は、1963（昭和38）年4月に開学した。開校当時の高度成長期の技術進歩の時代から、少子高齢化などの時代に応え、やむなく2007（平成19）年3月閉校となり、開学から44年間の学舎であった。閉校記念誌の波濤において、第17代校長中山正幸は、化学工業科、県内初の電子工業科、全国でも珍しい設備工業科の設置など、先見性のある特色ある学科構成である。以来「自主・自立」の精神を高めつつ工業人の育成に努め参りまし

た。(中略)たとえ学び舎の灯は消えてもここで培った「友情」「波濤魂」は同窓生の胸にいつまでも生き続けるでしょう<sup>5)</sup>。と尾道工業高等学校の教育指針なるものを述べている。

各校の開学は、その時代の要望に応じたもので、時代の変遷により変容してきた。明治・大正・昭和・平成の一連の時代で太平洋戦争、そして敗戦という大きな歴史的な変化があった。その流れの中で学校教育も大きく民主主義に舵を切ったといえる。

戦前の中等教育から、戦後の後期中等教育へと教育目的や内容にも大きく変化を生じてきた。尾道商業高等学校が開校してから120年、尾道東高等学校が開校して100年、尾道北高等学校が開校して85年、尾道高等学校が開校して50年が経過した。また、尾道工業高等学校は閉校となった。後期中等学校の教育方法や教科内容も変化してきたことは事実である。国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、家庭、音楽の教科において、保健体育の変遷や課外活動(運動部活動)の変化を視点に綴ったものは尾道市に文献は皆無である。

そこで本稿は、尾道市内の5高等学校の開校時から2009(平成21)年まで、各校の体育行事(運動会、寒中稽古)や身体活動(大遠泳、課外活動、マラソン・駅伝競技)、運動部活動、さらに教科(体操から保健体育まで)について、戦前から戦後の各学校の変遷や発展や特色を見ることを目的にする。

## II 戦前中等教育の身体活動から

### 1 戦前における各校の運動会

学校行事の主な行事は修学旅行、運動会、遠足などであった。ここでは運動会についてみる。尾道商業学校は、1888(明治21)年に開学した。開学後の運動会の開催年月を探したが残念ながら文献から運動会は実施しているようであったが正確に実施年月は読みきれなかった。後の1908(明治41)年に運動場拡張で運動会を開催している。1909(明治42)年開校の尾道高等女学校は開校し、1913(大正2)年に第1回の運動会を開催している。尾道中学校は1925(大正14)年に開校し、3年後の1928(昭和3)年に第1回の運動会を開催している。このように中等教育学校開校後の早い時期に運動会が実施されていることから、学校教育において運動会は、行事として重要な役割を果たしてきたといえる。

#### (1) 尾道商業学校の運動会

1908(明治41)年の大運動会は、尾道商業高等学校90周年史要<sup>6)</sup>によると、朔風獵々秋色荒び霜威凛々として高節に應ず、入りては書窓燈火古人を友とすべきの好期、出てては郊外散策意氣を養ふべきの佳期たり。山水水色嚴として肅、悉く吾人の覺悟を促すものの如く、苟且偷安因循として卑屈に安んずるものは即止み、勇往邁進進將來になすあらんとする者空しくこの好機逸すべからず。と記載している。

運動場拡張記念大運動會 1928（昭和3）年11月4日の運動會は、母校創立以來幾十年間、僅々800坪足らずの狭い運動場で、兵式体操から教練まで受けてゐた吾々は、茲に土の香り新しい運動場で訓練を受くる日が恵まれて來ました。坪數3千、正に3倍半になったのです。來る年も來る年も窮屈な思ひをしてきた古い卒業生たちから見ると廣々としたグラウンドでゆったりと遊び得る若人達の幸福は云はずもがなく、新しく生まれ出んとする尾商野球部のバットの響き勇ましくも聞こえて來ます。鶴嘴と鍬、籠と車とでコツコツと丘を掘ってゐた3・4年前の卒業生達の努力は、金網繞る氣持よいグラウンドを築き上げたのです。この新しい運動場拡張を記念する爲め11月4日盛大なる運動會が開かれました。20年來運動會らしい運動會はなかったのです。この日天氣晴朗一点の雲なく、觀衆貳千有餘、尾道本年に於ける悼尾の大運動會でありました。また、岡田節夫は、運動會漫談として次のように記述している。今年の運動會には国民体操、ラジオ体操、器具体操、デンマーク体操と体操が4つもあった。後の3つは連続的なもので皆記憶の必要がある。觀衆は果たしてこの教える者と習う者との努力を買って呉れたらうか、流行の語でゆう認識が十分にあったらうか<sup>6)</sup>。

\*

我校本年の運動會では体操自案運動の外尾道ビルディングと模擬戦とを見落としてはならぬ。是等に對しては200米競走にしても團體競争にしても甚だ振るわない。繼走も通學区域や學級別があるが血を湧かす程でなかった。小學校選手のも左程の感興がなかった。近年誠之館と同日だから東部に小學校からこない。高等の如きは豫選もせずに直ちに決勝とゆう次第である。

\*

晝食の時煙火をあげた。此日筒湯校で工場従業員の運動會があった。一發の號砲は闘犬の試合とも浪花節の開始とも種々様々に聞かれたであろう。

\*

模擬戦に於ける爆音は壯烈であつた。一番大きな音の分は一發一圓とか總經費は大分食つた。會場係接待係準備係記録係報告係……各係から豫算が出たが模擬戦の豫算は大に巨額だ。流石は軍部だからねと一同大笑した。

\*

今年は喇叭があつたので分列式が引立った。是も前述努力の一つだ。努力といえば体操の外に自案運動に於ける踊りも覚えねばならぬ。是等は自發的にやる事だが實によくやったものだ。誰かの評では5Aの幼稚園と4Aの櫻田門外にあつたらしいが、自分は5Bの補鯨船が一番よいと思つた。尾商の自案運動には煙幕と踊りがなければ納まらぬとの評があるが、鯨の踊りが一等見事であつた。

\*

拝借競走で子供を借りる時必ず負えと係り職員の注意があったにも拘わらず抱いて走った爲つい落とし大心配した。たいした事はなかったが非難があったかも知れない。昨年は楯取とかゆうので盲目で走ったがあぶなくてはらはらした。自分がけがをしてもかまわぬ位だから子供が落ちた位は平氣かもしれぬ。それにしても損得を打算して居ては出来ることではない。勝ということに向って猛進する純眞さを喜ぶのである<sup>7)</sup>。

上記の岡田節夫運動会漫談から運動会における実施種目は、国民体操、ラジオ体操、器具体操、デンマーク体操、体操自案運動、尾道ビルディング、模擬戦、200米競走、団体競争、繼走(リレー)、小學校選手、拝借競走、分列式の種目に分かる。

## (2) 尾道高等女学校の運動会

表1は、尾道高等女学校の運動会プログラムである。尾道市立高等女学校の第3回運動会について、次のように述べている。秋の光は天に地に満ち満ちて心もいとすがすがしき神無月下の5日、我が校には第3回の秋季運動会は開かれぬ。会場は裏の校庭にして之に面する階上の廊下を男子来賓席に、下の廊下を女子の来賓席とし、会場の南側の中央なる幄舎を会長席の其の左手を卒業生及生徒保護者席に、其右手を本校生徒控席に、校舎の西手を一般観覧席に、寄宿舎の全面を他校生徒席に、割烹室の南側の幄舎を楽隊の控え室と定め、家事標本室を以て職員の家族席となし、天を摩せん許りの二本の長竿の頂上には大国旗を翻し、夫れより各三方に引きはえる網には無数の万国旗胡蝶とひらめき会場の北側中央には大書せる今日の秩序書を吊したり。

かくて午前8時半吾々300人の同胞は希望の色を満面に堪えつつ楽隊の奏楽につれ隊伍肅々靴音勇ましく會場に入り来りぬ。一同敬礼の後国歌を合唱し、校長先生の開会の辞終わりて徐に各定め席につくや早や予定の運動は演じ始められたり、時正に9時前15分なりき。先ず1年甲乙合併の体操に序幕は開かれぬ。となつてプログラムは進んでいる<sup>8)</sup>。

プログラムでは、集団遊技としてダブルランサーズ(3年生)、アンヴィルコーラス(2年乙)、コロチン1・2・3(4年生補修科)、ファイボリットダンス(2年甲乙)、ノーマルサークル(1年生甲)、キューバダンス(4年生補修科)、カドレニアン(1・2年甲乙)がある。体操のプログラムは、1年生(甲乙)、2年生(甲)、3年生、4年生、及び垂鈴(2年生甲)、棍棒(4年生)で、1年生から4年生まで実施している。教練は、2年生(甲乙)、3年生が演技している。その他の競技として、物干し競争、綱引、絵画競争、手紙のいろいろ、造花、家事競争などが行われている。

最後の種目の「カドレニアンにて運動は目出度千秋楽を告げれば茲に閉会の辞ありて楽しく家路を辿りぬ。時己に4時過ぎる事30分なりき。」と締めくくっている。

その後の尾道東高80年のあゆみ<sup>2)</sup>による運動会では、次のように記述した部分がある。

表1 尾道高等女学校運動会のプログラム

	第3回尾道市立高等女学校運動会 1913（大正2）年	広島県立尾道高等女学校 1924（大正13）年
1	体 操 1年 甲乙	聯合体操 全
2	物干競争 2年 甲	徒競走 4年全
3	教 練 2年 乙	ハンドボール 2年1-2
4	ダブルランサーズ 3年	アイヌダンス 1年全
5	体 操 4年	体 操 3年全
6	徒歩競争 1年 甲乙	キャッチボール 4年1-3
7	アンヴィルコーラス 2年 乙	球撞競争 補習科全
8	フットボール 選手	ハイランドシャンテ 2年全
9	コロチン（1・2・3） 4年 補習科	棍棒体操 4年全
10	ノーマルサークル 1年 甲	50米突競争 有志
11	体 操 3年	ヴァレーボール 3年選
12	綱 引 4年	体 操 2年1
13	玉送り 1年 甲	アルプスダンス 1年1-2
14	ノーマルダンス（1・2・3） 2年 甲乙	功 城 3年全
15	教 練 3年	二人三脚旗送り 2年1-3
16	庭 球 選手	ファウスト 補習科全
17	(休 憩 30分)	徒競走 3年全
18	大 弓 選手	旗体操と旗奪 1年全
19	壺 鈴 2年 甲	ゼボチカワルツ 4年全
20	ファイリットダンス 2年 乙	予選競争（リレー） 本校選手
21	バスケットボール 3年	綱 引 3年対2年
22	キューバダンス 4年 補習科	(午後の部)
23	綱 引 1年 甲乙	徒競走 2年全
24	棍 棒 4年	ボルカセリース 3年2-1
25	絵画競争 2年 乙	クラブゲーム 4年1-2
26	手紙のいろいろ 3年	オックスダンス 2年全
27	造 花 1年 乙	予選競争（リレー） 小学校選手
28	スプリンレース 卒業生	音律体操 2年全
29	教 練 2年 甲	俵 奪 1年2-3
30	提灯競争 職員	上下玉送り 3年全
31	体 操 2年 甲	オーバーゼアー 補習科全
32	徒歩競争 選手	徒競走 1年全
33	揺 監 歩 3年	避難競争 4年2-3
34	家事競争 4年	マズルカ 3年1-2
35	徒歩競争 小学校 選手	障害物競争 4年2-3
36	カドレニアン 1・2年 甲乙	決勝競争（リレー） 小学校選手優勝旗授与
37		盲啞子守競争 1年1-3
38		モーターダンス 4年全
39		関所ボール 本校職員
40		決勝競争（リレー） 本校選手
41		ポロネーズ 3・4年、補及び卒業生

尾道高等女学校まだま1号、尾道東高校八十年のあゆみより作成  
 1924年の運動会回数は、運動場拡張工事や豪雨で崩れて開催されなかったことがあるため回数は不明

初期の頃の運動会においては、観覧するための席が来賓は男女別であった。校舎の階上の廊下が男子、階下が女子である。また他校の生徒席が設けられている。楽隊も頼んだらしく楽隊の席がある。演技種目も女学校だからダンスが多いのは当然であるが、今日では「アンヴェイルコーラス」「コチロン」「ダブルダンサーズ」といってもどういゆものかわからない。しかし「昔の公達きんたちもさもやと思はるる細腰の扮装、袴の裾を高く絞れる組みあり、然らざるあり。時に或は銀鈴の音豊かなるあり。或は軽く余りに揺らぐあり。或は軽く或は重く変動し、寄せては返し、返しては又寄する波の花、軽く袖翻り、蓮歩れんぽ回る姿には天女の舞もかくやと暫し観客を酔わしめたり。」とある美文調のこの文章からダンスの美しさが想像できる。「天つ風雲のかよひ路吹きとちよ乙女の姿しばしとどめよ」の再現である。ちなみに「蓮歩」とは、中国の故事から生まれた美人の歩みのことである。演技の中には綱引、手紙のいろいろ（借り物競争）などのように、今日までも廃れないものもあるが、教練という思いがけない「軍隊式訓練もある<sup>2)</sup>。また、このような記述もある。1924（大正13）年の県立尾道女学校の運動会は、3年振り、新運動場で大運動会を開催しました。運動会日和として申し分なき天気。初めて行う会場のことですから何彼と心遣ひて居りましたが、設備其他等何等支障なく、観覧者も早朝から来校せられ、午後は文字通りの立錐の余地なき有様でした。プログラムは次の通りです。此の日同窓会では食堂バザーが催されこれ亦非常な盛会で午後は早くも売り切れた様です<sup>2)</sup>。

運動会プログラムは、集団遊技として、アイヌダンス、ハイランドシャンテ、アルプスダンス、ファウスト、ゼポチカワルツ、ポルカセリース、オックスダンス、オーバーゼアー、マズルカ、モーターダンス、ポロネーズがあり、1913（大正2）年の大会より集団遊技は多くなっている。また、プログラムから無くなった種目に教練がある。小学校のリレー競争があるのは、小学校との関係を深めるため、つまり女学校の運動会を体験することにより理解度を深めるため、競技を設けたものと考えられる。1924年の運動会の参加小学校は16校で因島土生小学校が優勝している。

旧職員の中尾松平は大正も終わりに近い頃学校を訪れた時の事を書いている。それは、秋空の運動会も男生徒禁制の深窓的なもので、内容も戦後的とは全然趣を異にしていたという。

1921（大正10）年頃の運動会が近づくとも岡本先生（男子）が私共にダンスを教えて下さるのですが、筋骨たくましい先生がラクダ色のシャツを召されてたこ踊りよろしく手をヒョイと上にあげたり、長い足でチョイとふんで飛ばされる御様子がなんととも<sup>8)</sup>。

山崎和子（旧姓尾越）は、1933（昭和8）年の寄宿舎生活の一端で、運動会の入場について「運動会には入場券が発行されて、それがないと入れませんでした。私たち寄宿舎の生徒は沢山の入場券は入らないものですから市内の生徒に譲ったことがありました。」と述べて

表2 尾道中学校運動会のプログラム

	第1回尾道中学校運動会 1928（昭3）年	創立10周年記念大運動会 1935（昭和10）年
1	準備体操 生徒 会員	準備体操 生徒 会員
2	100米競走	400米繼走 2年生 会員
3	走り高跳	三人四脚 3年生 一部
4	100米決勝	100米競走 各学年 選手
5	バスケットボール試合	倒立競走 各学年 選手
6	三段跳	200米競走 4年生 全員
7	騎馬戦 2年生 全員	ワント体操 1年生 全員
8	圓盤投	親孝行 2年生 一部
9	倒立競争リレーレース 小学生	200米競走 各学年 選手
10	棒高跳	競馬 3年生 一部
11	閣 討 2年生	タンブリング 1年生 全員
12	200米競走 2年生 全員	入場式、優勝旗返還 小学生 選手
13	体 操 2年生 全員	800米繼走予選 小学生 選手
14	走り幅跳び	綱 引 1.2年生 全員
15	尋常科リレー豫選 小学生	依 奪 4年生 全員
16	高等科リレー豫選 小学生	オリンピック（ベルリン） 5年生 一部
17	砲丸投	大井川 1年生 一部
18	武装競走	端典繼走 各学年 選手
19	400米競走	100米競走 小学生 選手
20	綱 引 全員	飴喰競争 2年生 一部
21	借り物競走	800米繼走 各学年 選手
22	計算競走 1年生	(昼食休憩)
23	200米競走	柔ノ型 1年生 一部
24	野仕合 4年生 剣道部	200米競走 3年生 全員
25	槍 投	騎馬戦 2年生 全員
26	職員競技	祇園祭 1年生 一部
27	800米リレーレース 3・4年生	武装競走 4年生 一部
28	自転車教練 1・2年自転車通学生	竹馬競走 3年生 一部
29	来賓競走	障害物競走 3、4、5年生 選手
30	1500米競走	400米繼走 1年生 全員
31	尋常科リレー決勝 予選通過校	コロガシ 2年生 一部
32	高等科リレー決勝 予選通過校	中隊教練 4年生 全員
33	1500米競走 近郷青年団 選手	信号拝借競走 2年生 一部
34	中隊教練	タンブリング 3年生 全員
35	分列式 本校生徒全員	800米繼走決勝 小学校
36		珠球競走 来賓及び職員
37		劍 舞 2年生 一部
38		サイクルレース 県東部選手
39		1500米繼走 青年・生徒 有志
40		模擬戦 5年生 全員
41		分列式 生徒 全員

尾道中学校友會誌第巻号、尾道北高等学校創立50周年記念誌より作成

いる<sup>2)</sup>。これをみると、尾道高等女学校の運動会には誰も自由に校内に立ち入ることはできなかったようで、運動会見物に整理券が必要であったことが推測される。

1936（昭和11）年になると、戦時色の時代を反映してかダンスは、「菊」「胡蝶」「荒城の月」など日本の曲が多くなった。1937（昭和12）年になると、中国との戦火が交わされ、万一の備えとして、なぎ刃を運動会で披露したという。さらに、1939（昭和14）年からは運動会において、軍隊で行進を模した分列行進が取り入れられた。指揮者が先頭において、二列横隊で行進し、壇上の校長に敬礼をした。スプーンレース、障害物競争、ダンスなどの種目もあった。やがて運動会も1944（昭19）年には、4年生は学徒動員で工場に働きに行き運動会中止となった<sup>2)</sup>。

### （3）尾道中学校の運動会

表2は第1回尾道中学校運動会の1928（昭和3）年と1935（昭和10）年の運動会のプログラマである。

1928（昭和3）年第1回尾道中学校運動会（10月21日）の様子を校友会誌<sup>9)</sup>は、次のように開場の雰囲気を伝えている。

紺碧の空は拭へる如く晴れ渡り白雲軽く舞ふ。此の日我が校は第1回体育大會を開催す。紅白の幕をめぐらしたる會場の設備万端遺漏なし。會場は万國旗を以て飾られ、日章旗は本館東端に掲揚され秋天高くひるがへる。開場を待つ觀衆は早くより門前市をなす。午前8時、尾中樂隊の吹奏に伴ひ國歌を齊唱す。続いて校長の開會之辭あり。終わって役員は各々その部署につく。本校健兒意氣旺盛にして紅白兩軍は實に龍戰虎争の感あり。早くも招集係はメガホンを口にして満場に百米競走選手を募る。（以下省略）

表2のように、プログラム1番、準備体操、2番、100米競走、3番、走り高跳、4番、100米決勝と続き、終盤にプログラム33番、近郊青年団の1500米競走、34番、中隊教練、35番、生徒全員による分列式でプログラムは終了する。

次にプログラムにおいて、陸上競技以外で特に目に留まる種目を上げてみよう。

#### ○武装競走

スタートに臥せる兵士、忽ち満場に響き渡る起床ラッパと共に、ガバと起き逸早く武装して決勝に入るなり。

#### ○自轉車教練

1・2年生自轉車通學生が各自轉車に乗りて隊を組み、「廻れ右」「右むけ右」等簡単な教練の動作を行ふ。

#### ○尋常科リレー決勝

豫選21校が出場した。豫選通過4校は、赤坂校、向東校、今津校、浦崎校、我こそ榮譽

ある優勝旗得んと四校同時にスタートを切る。赤坂校が第一着にテープを切る。

○高等科リレー決勝

豫選 8 校が出場した。通過校は、吉和校、栗原校、浦崎校、向東校の 4 校で、吉和校が満場の喝采を浴びつつ優勝す。

○中隊教練（4 年生）

此日吉武先生馬上ゆたかに指揮を執らる。中隊密集運動及び突撃を行ふ。

○分列式（本校生徒全員）

嚴肅なるラッパ吹奏に伴ひ、小隊毎に分列式を行ふ。

当日の主要レコードを記す。

100 米競走	12 秒 5 分ノ 2	3 年	綱本剛雄
200 米競走	25 秒		
圓盤投	27 米		
走幅跳	5 米 50 糎		
400 米競走	1 分	4 年	東川竹雄
砲丸投	12 米 43 糎		
槍投	40 米 11 糎		
三段跳	11 米 75 糎		
1,500 米競走	5 分	3 年	山本 保
走高跳	1 米 55 糎	4 年	堂前信夫
棒高跳	275 糎	4 年	齊藤誠三
800 米リレー	1 分 50 秒	4 年	東川、山崎、日下、堂前 ……完……（柏原記）

運動会終了を校歌齊唱万歳三唱して閉會す。時に太陽將に西に傾かんとす。我校第 1 回体育大會のかくも盛會に幕を閉づることを得しは一に計りて至らざるなき校長先生及び熱心事に當られし諸先生方の賜に外ならず。將來本大會の回を重ねる毎に益々大ならん事を期して筆を擱く。と第 1 回運動会（体育大會）を尾道中学校交友會誌第壹号は結んでいる<sup>9)</sup>。

尾道中学校運動会、1931（昭和 6）年 4 回まで毎年開催され、1934（昭和 9）年に回数は明記されず体育祭となっている。1935（昭和 10）年に創立 10 周年記念大運動会が表 2 のプログラムの様に盛大に開催された。開会式の次第は、校旗迎、国旗掲揚、君が代、体育歌合唱、優勝旗返納、開会ノ辞となっている。

プログラムは、準備体操、400 米繼走、三人四脚、倒立競走、100 米競走、倒立競走、200 米競走、ワント体操、親孝行、200 米競走、競馬、タンブリング、入場式、優勝旗返還、800 米繼走予選、綱引、俵奪、オリンピック（ベルリン）、大井川、端典繼走、100 米競走、

飴喰い競争、800米継走、柔ノ型、200米競走、騎馬戦、祇園祭、武装競走、竹馬競走、障害物競走、400米継走、コロガシ、中隊教練、信号拝借競走、タンブリング、100米継走決勝、珠球競技、剣舞、サイクルレース、1500米継走、模擬戦、分列式である。

このプログラムの題目から時代の特徴をみると、今日の中・高等学校の運動会まで引き継がれている種目に100・200米競走、400・800・1500米継走（リレー）、三人四脚、綱引、飴喰競争、騎馬戦、竹馬競争、障害物競走などがある。また、この昭和の時代背景を尾道北高等学校50年誌<sup>3)</sup>でみると、1932（昭和7）年に5.15事件、東部中学校連合発火演習、1933（昭和8）年建国祭行事マラソンレース、4・5年生東部中学校連合野外演習参加、5年生福山連隊兵営生活2日間、ヒットラー内閣成立、ニューディール政策開始。1934（昭和9）年学校長の鮮満中華民国視察旅行、連合野外訓練、4年生福山連隊宿泊。1935（昭和10）年5年生福山連隊実弾射撃、新運動場工事竣工、使用始めとして閲兵、分列式、御真影奉安殿新築工事竣工など戦時色の行事がある。この社会背景を抱えての運動会に反映した種目は、武装競争、中隊教練、模擬戦、分列式がある。また、小学生との関係を深めようと小学生独自の入場式を設け、前年度優勝校の旗返還の次第がある。小学生の種目に100米競走、800米継走が行われている。

閉会の次第は、優勝旗授與、国旗降下、君が代、校歌合唱、校旗送、閉会ノ辞、萬歳三唱となっている<sup>3)</sup>。

大正時代から昭和時代の中等学校教育の運動会におけるプログラムは、尾道高等女学校の「大正ロマン」の色彩が反映した集団遊技が多かった事が伺われる。昭和時代になると若干運動会プログラムに軍事色の色が付き始め、尾道商業学校、尾道高等女学校、尾道中学校の運動会のプログラムに中隊教練、模擬戦、武装競走、分列式などの軍事的な色彩が強まって行った時代でもあった。

## 2 寒稽古

1月の最も寒さが厳しい寒中に武道（剣道、柔道、弓道、薙刀等）や水泳等で心身を鍛練する目的で行われてきた。その稽古が学校教育においても、戦前、戦後を通して行われてきた。ここでは戦前の尾道商業学校、尾道高等女学校、尾道中学校の3校から当時の寒稽古を文献から掲載する。

### (1) 尾道商業学校の寒稽古

大正5年頃のつらい寒稽古が次の様に記載されている。今頃の寒稽古は、寒中の約1週間、朝5時から2時間みっちり鍛えられた。向島の連中は、あさ3時に飛び起き、空腹をかかえ、兼吉に走る。ところが船頭は、尾道側にいて、なかなか来てくれない。「オーイ、オーイ」身を切るような寒風のなかで、みんな声をからして船頭を呼ぶ。船頭のおっさん

は、客が少ないとなかなか腰を上げてくれない。ようやく櫓をとって兼吉までくるのが20分、それから生徒達が乗船だ。みんな寒いので、おっさんが櫓をこぐのを手伝いながら、やっと尾道側に着く。水道を渡るだけでたっぷり1時間はかかる。へたをすると2時間ちかくかかることもある。それから学校に飛んでいって、寒稽古だ。向島組みの豊田義徳は、「尾道水道を渡るときの寒さは、いまでも忘れられない。しかし、寒稽古が終われば、寄宿舎で熱いミソ汁と飯を食べさせくれる。あのおいしさは格別だった<sup>10)</sup>。」向島側から尾道側に渡る渡船で櫓をこいで冷えた身体を温める動作の様子、稽古が終了してから暖かい食事の旨さが青年らしい純粋に語っている。

昭和10年の尾道商業学校校友会誌による寒稽古の心情について、次のように歌っている<sup>11)</sup>。

少年の霜の朝の竹刀杖	俊 郎
道場へ爪先で行く寒稽古	快 三
武具着けて息を殺しぬ寒稽古	魚名子
面取れば寒き風や寒稽古	圭 蔵
寒稽古庭の眞闇に窓明けぬ	吉 蔵

## (2) 尾道縣高等女学校の寒稽古（弓道）

尾道東高等学校50年誌<sup>8)</sup>において、井口朋子（旧姓土屋）は「花嫁はかくて巣立ちぬ」で、弓道部の寒稽古を次のように述べている。

丁度私達が4年（昭和3年）の寒稽古も忘れ得ぬ一こまで、遠くから通学していた私は、提灯を付けて家を出る。学校へ着いても未だ夜は明けない。暗い運動場を駆け上がって行くと2人3人登ってくる。道場をあけても見えるものは只ぼっかり白いのみ。寒気については息が一条白い。ビューン、シャツ、ピユウ、パツ。しじまをふるわせるつるの音。何ときびしく、身も心も引きひきしまる思い。暫く射る間にまるで的が近づく様にパツン、パツンと連続的中。しめた、しめた。会心の笑みを浮かべたのも束の間、音もなく飛び去った矢の方向に、皮肉にも夜はなかなか明けてくれない。尋ねぬいた果に、係のトンプク先生に詫びに行ったところ、きびしく叱られ2～3人で泣いた事もなつかしい。こうして2週間の寒稽古も競射会で終わる。

## (3) 尾道中学校の寒稽古（柔道、剣道）

男子校の尾道中学校は、1年生が剣道と柔道の当時の雰囲気や次の文章で語っている。尾道中学校の寒稽古を尾道中学校校友会会誌<sup>9)</sup>（昭和4年）から、柔道と剣道の寒稽古の1年生の風景をここに紹介する。

1月14日我等の寒稽古が始まった。我等の心身を鍛練する時が来たのである。其の奮闘の様は其の音と共に實に目覺ましきものであった。毎日毎日柔道着を着て勇ましく戦ふ尾中柔道部健兒は雄々しきものである。其の時は足をかける人、投げる音、「參った」と聲音を發する人。「ウーン」とおさえられたのを起きやうとし、起こすまいとしっかりおさえ込む人、皆それぞれに力を入れて一生懸命になって居る。

僕は弱い、しかし弱くとも尾中健兒の一人である思ひ、勇ましく敵と戦ふた。一生懸命力を入れて体を鍛練した。僕は投げられた事もいくらかある。投げた事もある。おさえ込んだ事もあり、「ウーン」と云う程おさえられた事も、皆それぞれ鍛練して居る事と思ふ同級生とも上級生とも組んで投げられた、その時は實にいい気持ちになってゐた。日曜日にも来て鍛練した。このやうにして体を鍛練したのは水の泡ではないと思ふ。体の力及び精神の努力といふ事について、ずいぶん有効であつたと思ふ。1月23日柔道部500名の健兒は、納會の爲め、今迄の鍛えた体をもって、目覺しく仕合をしたのである。

(第1學年1組 舟橋教好)

寒稽古が始まった。1月14日から23日まで10日間で第1、第2、第3班に分れる。僕は市内の長江町であるから第1班に入った。さて14日の朝が来た。5時40分位に起きようと思つてゐた所が、寝すぎて目がさめた。起きて電氣をつけて見ると、6時である。僕は寝すぎたので大急でしたくをし、竹刀と面をかついで一生懸命に走つた。尾商の所まで行くと、中學校の6時半のサイレンがなつた。僕はしまつた第1日からの後れをとつたと思ひながら、それでも間にあふかと思つて走つた。やがて武道場の入り口の所まで来た。その時出欠席をとつて居られた。ちやうど其の時番数はまって、梶並先生が元氣の良い聲で「新宅」とよばれた。僕はいきなりハイと答えた。僕は間に合つたのでホッと安心した。皆は稽古着に着替えて居た。僕も早速けいこ着にきかへけいこを初めた。やがて7時10分のサイレンが鳴つた。其の時僕は半分汗が出てゐた。早速洋服にきかえて歸つた。歸る時の気持ちといつになつたら實に何とも言へない。かくして僕は13日間1度も遅刻も欠席もせず、無事に寒稽古をすました、そして過ぎ去つた10日間を顧る其の時、實に感慨無量であつた。

(第1學年2組 新宅賢爾)

我等の意氣をふるつて稽古しようと、待ちに待ちたる寒稽古の時が来た。1月14日朝まだ暗き闇を破つて竹刀の音ははげしく響きわたつた。「ヤツ、サア」と言う發聲に僕の心は勇み立つた。もらじつとして居られない。僕は相手を求めに歩いた。「山田君やらうじやあないか」と僕は聲をかけた。山田も元氣よく出てきた。僕も山田を打つたり打たれたりして、腕が眞赤になるまでやった。時間が来て面を取つた時、頭から沸騰する湯の如くゆげが立つた、其の時の気持ちよさ何と言つてよいかわからなかつた。翌朝は腕をふるつて上級生と稽古した。3日目、4日目と僕の腕はますます上達して来た。前には負けて居た相手も、平氣

に打ち負かした。8日目の朝は大変寒かったがかまはず僕は元氣を出して柔道場のすみに服を脱いで、道具を着けて立ち上がった。2年生の上手な人につかってもらった。10日目はいよいよ終わりになった。今日は試合だと思って學校に来て見ると、1年生は試合はない言ふ話だった。2年生から試合が始まった。皆元氣にみちみちたるふるまひであった。僕もあんなにしたいなあとと思った。（第1學年3組 中本道次郎）

戦前における中等學校の寒稽古は、各校で実施されていた。青年期の寒稽古を通じての教育は、寒さに中での身体訓練から精神力を逞しくする一つの方法であった。戦後になると柔道部や剣道部の一部の高校や大學において実施されているに過ぎなくなってきた。

### 3 尾道商業學校の大遠泳

尾商90周年史要<sup>6)</sup>によると、1907年（明治40年）7月23日より、2週間向島大町において水泳練習を開始する。食費1日約15錢也。水泳部費1人につき金10錢宛。教師は東京市日本橋區矢ノ倉町川船信民（東京水泳協會教授）を招聘せり。と記載がある。

尾商90周年史要において、座談会（老童青春回顧 昭和52年6月29日 於尾道市第1ホテル）で収録されている。そのなかで遠泳について以下のように記載がある。

坂本弥三郎（第11回 明治44年卒）は「遠泳がありましたな。今の山波の西山旅館のところから、糸崎の八幡さんのところまででした。」

藤井武雄（第31回 昭和6年卒）は、「僕のときは旧裁判所のところまででした。大分短くなったわけですね。」

井上壽三（第17回 大正6年卒）は、「大町へ水泳に行っていたが、帰りは芋畑の道が暑いのは参った。」

財間八郎（第18回 大正7年卒）は、「干汐から帰るのも辛かったですね。暑いんで。」

平田幹三（第15回 大正4年卒）は、「僕らは袴を穿いて、上半身は裸で歩いて帰ったもんです。私は水泳部を3年見ましたが、大遠泳には全部参加しました。」

以上の座談会からみると、明治40年には水泳部が創部され水泳訓練が実施されていた。坂本弥三郎の卒業時の明治44年には、すでに遠泳は行われていたことになる。場所は現在の山波町の西山別館付近からが推測される。また、三原の糸崎神社前から尾道の山波までの遠泳を、やり遂げたものには、銀メダルが与えられた<sup>6)</sup>。

松本岑雄は、大正12年11月同窓會報第19号<sup>12)</sup>において、尾道商業學校の名物行事の大遠泳を次のように記述している。これをみると、当時の遠泳の期日や運営組織、遠泳方法、泳法等が詳細に分かる。

流水落花を剩せて遠く去り杜鵑一聲夏は來る。夏休暇は是活動の好時期、幾多男性的壯美は潜んで其の内にある。見よ、蒼々たる新葉の風に翻り太陽直下に萬物發育するの時、其處

に沸騰する男子の血液の嘔くきと、向上の努力と覇氣を示すのではないか。

夏は吾人の前に提供された、偉大なる自然の恩恵に對し吾人たる徒爲に閑日月があるうか。例年の如く水泳部を開催し、水泳場は去年の如く岩子島である。殊に今年は現今の趨勢に鑑み、神傳流を修業せる1級生以上には競泳を練習せしめ、他日、有爲の途に充てんとした。我が校出身大坂高商在學中の水泳選手として名聲ある亀田君を競泳の師に仰ぎ、同じく神傳流の心得ある東京外語の學生岡君をも招聘した。又例の我校の訓染の清水先生にも御指導を仰ぐ事にした。

7月22日(日曜日)

此の夏休を最も有効に身體を鍛錬せんものと元氣よく部員は續々と東豫棧橋へ集合し整列の上7時半全員發動機船御島丸に乗り組む。ポンポンと小氣味よい音と共に油を流した様な靜かな水面を迂るが如く港内を出た。

希望に満ちた太陽はきらきらと輝き柔い風は絶えず吹いて帽子を揺がす、北岸の人家連れる鉢ヶ峯の連山も後にして鳥々を過ぎて岩子島に近づく。磯に茂れる嚴島神社の老松も去年と同じ様に高く聳え我々の来るのを待ち顔である。上陸して社前に集り開部式を挙舉行する。校長先生より訓辭及び御注意ありて後、清水先生又競泳の教師たる亀田君を紹介せられ、助手として昨年の卒業生水泳部員の先輩たる喜多君新たに神傳流の助手として来られた。岡君も同様に紹介された。

奥田先生の號令の下に豫備体操を行ひ、終つて後各級別に脚立筏等を設置し、午後より稍寒かりしも盛に練習した。練習終つて疲れて帰るからだは皆一様に眞黒になつてゐた。

本日左の數名助手を命ぜられた。

吉本、村上、和田、上藤、廣安、松本の諸君、尚、監督の勞を執られた諸先生次の如し。前田校長、高橋、脇田、平田、大西、奥田先生。

7月23日(月曜日)

朝少し曇り風があつたが午後より晴天一片の雲もなく刻一刻其の熱度を増す。部員盛に練習し水沫林中の蟬の聲よりも茂し。一級生以上亀田君に就き親しく外國競泳法中、特にクロールストロークに付き熱心に練習した。

7月24日(火曜日)

連日の暑さに少し部員減少したが構ひもなく更に元氣よく海中に飛び込み良く明日の小遠泳の練習等をした。

7月25日(水曜日)

今朝は殊に寒くあつたが午後生徒一同3列に整列し南邊に5・4・3級生を配置し中央に修業生・1級生を入れ、豫備体操の末各自一問の間隔を保ち海中に入る。水温豫想外に低く、少數の落伍者生じたのみ比較的成功裡に灣内一周の壯舉を了へた。

7月27日（金曜日）

暑さ烈しい昨日も本日も大遠泳・競技會の練習をさへ怠りなし。一日中強き光線反射する海面上練習に熱心なり。

午後より大遠泳の整列順を定め豫め用意する、今年は尾道より糸崎に向ふとの事なり。

7月28日（土曜日）

9時半迄に浄土寺下に集合した。全員は整列し、嚴密な注意の下に豫備体操を行ひ、群衆の黒山を後に見て水上警察船を先頭に、十數艘の監視船一艘のモーターボートに圍まれ、音楽隊の吹奏する校歌と共に静々と3列縦隊となって浄土寺下を出發した。

本日朝來の雲天、加ふるに烈風の薄ら寒い天候にもめげず『エンヨー・エンヨー』と元氣よく呼びつつ行進した。

恒例の尾商の壯舉を見んものと海岸に連れる觀客は寒さにも屈せず、更に勇氣を出し泳ぎ行くを見思はず感歎し應援する者頗る多し。商船棧橋を過ぎてより波浪益々高く水温愈々低く一百有餘の健兒此處を先途と波浪と奮闘し、終に尾道港を離れた時は隊伍漸く亂れ落伍する者多く一昨年より以上困難を來し、眞に我水泳部創始以來空前絶後の大遠泳なる事を思はした。

鯨島付近を通過する時は最早列伍相離れ、此方に一群彼方に一團となり、先頭及び殿の差約3町を越へ遠方の者は波間に沈みつ浮きつ實に困難の極みであつた。波高く風あれ。\*草にて泳ぐを得ず、\*眞の泳法で泳ぐの外なく、目的地八幡神社に達すを得ず、終に約4丁近き或る波止場に上陸した。先着杉原君、須澤君に總べて合計僅に22人以てその日の苦痛を偲ぶべし。（\*神傳流泳法眞・行・草）

付近の神社に上がりて2・3時間休息し、後和船に乗って歸途に就く。晝食として木村屋パン3個宛與えられた。餓えたる者に粗食なし、且食且談じ當日の様子を語りつ尾道に到着、日正に西天にありき。

本日到達地にて部員一同に飴湯の豫定なりしも後れて間に合わず遺憾なりき。モーターボートの應援に來られたし旭商會及び樂隊寄贈の木村屋に一言謝して置く。

7月29日（日曜日）

前日の疲勞を事ともせず參集し、諸君は朝來の好天氣、太陽炎熱基の威を逞しうする所盛に泳ぎ、練習し、明日の競泳會の用意怠りなし。

7月30日（月曜日）

日本晴、風穏やかに波静か、實に競技會の絶好日和である。街路に張られた尾商水泳部大會のビラは異常に世間を刺激したと見え、來り見る者六七百人を過ぎ、遠く海濱に立ち竝んで觀覽する。

好期來る!! 晴天尾商健兒の怪腕を振ふの時は至れり!! 連日の猛練習に鍛へし鐵腕最新

泳法に腕は鳴る。

神傳流諸手抜、雁行、櫓業、うりむぎ等、水際立った腕前に思はず拍手し外國競泳には觀客目を見張り鳴りを静め、其他種々の應用水泳術をやり、盛會裡に終わった。前日の遠泳には苦楚し、本日の競技會は最も愉快に、共に本年水泳部の記録の花形として永く我水泳部の參考資料となるを疑はない。

7月31日（火曜日）

引續の好天氣にて、勇氣殊に上り、今年の水泳部最終日とて盛に泳ぎ廻る。午前中に練習と水泳施設の取片づけ、午後水泳の後社前に參集し閉部式を舉行した。

進級、皆勤、遠泳等の申告、昨日の競泳會の優勝者にメダル、手拭、靴墨、其他種々の賞與を行ひ、10日間の水泳は各先生方、先輩其の他の人々より應援いただき有意義に行はれた事を喜ぶ<sup>12)</sup>。

水泳部は、大正12年卒業の喜多実（尾道市久保町、九十九呉服店社長、商店街連合会副会長）、宮本保吉（同市東御所町、死亡）らの尽力で活発になってきた。毎年7月の夏休み前、10日間、部員と1年生全員は、御調郡向島町大町、さらに15年同郡向島町岩子島で練習をした。講師には、真伝流の清水景豊が東京からわざわざきて、指導した。清水はもう70歳をこえた老体だったが、非常に熱心に生徒を指導、その浮き身はみごとだった。大正14年には慶応大学水泳部の景山了一らがきて、クロールなど外国水泳法を教え、加茂忠雄（尾道市土堂町、市会時務局長）は、同部ピカーで水泳初段を取り岡山などに遠征、良い成績をあげた<sup>6)</sup>。

昭和6年度の水泳部費用は雨が降ったから正味5日間で約400圓といふ莫大な金を使っている。この向島大町の水泳合宿時代には可成り印象深い思い出があるらしい。当日の美文、或は内緒話をぶち明けて記せば。7月23日 午前8時頃下野、後藤、萩原氏來る。9時過河地先生青い顔して悄然として來れる。近来健康を損じられたる由、大町の涼風は病魔を一陣の下に驅逐す。將棋を闘わずもの三々五々、皆團栗の背比べ、掘劣見るに堪へず。原先生腹痛下痢、意氣鈍に昂らず。此夜蜜柑一貫目を平ぐ味更になし、高橋元次郎先生宮本武藏談義一席頗る愉快。此の夜藏合義定君病んで苦痛を訴ふと、直ちに生きて是を診るに病狀稍重き觀あるも要するに胃痙攣ならん、宮地君又病んで嘔吐くを催す、要するに腐敗の傾向あるラムネ及び駄菓子氷等を多量に食せしによるものならん<sup>6)</sup>。

海に面した尾商は、明治の時代から水泳に力を入れた。毎年夏には対岸向島海で徹底的に鍛えた。三原市糸崎町から尾道山波町までの大遠泳も全員が泳ぎ通した。大正時代の終わりから昭和のはじめにかけて、喜多実（尾道市久保町、九十九呉服店社長、23回卒）、加茂忠雄（尾道市土堂町、市会時務局長、26回卒）、円福寺常太郎（同、円福寺商店社長、29回卒）などがこれまでの真伝流一本の泳法からバタフライなどの競泳の基礎をつくり、続いて

尾商から関西学院に進学した林原秀太郎（同、吉和町、28回卒）が、新しい競泳を部員に教えた。やがて、7年には、木村忠雄（野村證券熊本支店長、34回卒）は全校大会で、100メートルバタフライで3位入賞、土屋一郎（尾道市土堂町、尾道市中央青果社長31回卒）、松木清三郎（同市栗原町、福島肥料）などが活躍した<sup>10)</sup>。

昭和14年には、中央から佐藤八段が来て指導、広島文作（同市久保町、42回卒）小山豊郎（同、41回卒）らが有段になった。吉和町に移転してから、同町畑岡により天然プールがあるのを発見、勝原康之（三原市港町、小間物産、41回卒）、松本栄一郎（同市中ノ町、三原工高教諭42回卒）などが猛練習を重ねたが、やがて、国防水泳に変わった<sup>10)</sup>。そして、1940年（昭和15）年7月18日水泳部の干汐における海水浴場廃止となった。

水泳部が活動を開始したのは、7月の20日頃からで、向島の大町や干汐が書面に出てくる。期間は約10日間で神傳流の泳法や西洋様式のクロールストロークを校外講師や卒業生、校内講師（補助的な役割）が担っている。尾道商業実業学校の校長や教員数名が担当者として構成され組織的な活動が展開されている特徴が窺われる。遠泳が大イベントとして実施され、尾道市民が見物人としても、また、応援したり物質的な支援が企業からあった。遠泳場所で出発地点は、山波町の西山別館付近から、浄土寺下、旧裁判所付近と距離的に若干短縮されている。やがて水泳訓練も戦時色が強くなって国防水泳に変わったという<sup>10)</sup>。

#### 4 尾道高等女学校のバレーボール

尾道高等女学校で盛んに行われていたスポーツは、バレーボール、テニス、弓道等で、なかでもバレーボールとテニスは人気種目であった。

尾道東高等学校80年の歩み<sup>8)</sup>によると、1927（昭和2）年、バレー部誕生した。大心地佐夜子などの思い出によると、バレーボールの選手には、バレーボールのサーブがネットを越す人が先ず選ばれた。それからパスの巧みさをみて選らんだという。当時の運動服装は運動シャツとスカートだった。バレー部の顧問には体操の岡本好太郎と同じく体操の先生大西久子先生がなられた。最初の間は試合に出ても1回戦で敗れていた。しかし、1932（昭和7）年頃には県の大会で準優勝するところまでになった。

1936（昭和11）年、この年に山本実が赴任され指導されている。山本実は創立50周年記念号<sup>8)</sup>において、赴任して最初応接室にスポーツ関係の優勝旗やカップ等は見当たらず、不思議に思ったことは、スカートで練習していることである。これは県の西部では見られぬことである。これではものにならぬと思い、大先輩の岡本体育主任に伺うと「当地方はスポーツにたいしてあまり理解がなく、女の子には琴、三味線、お花、舞踊をさせることを親は喜び、大きな太股を出して顔は真黒になり、飛んだり、跳ねたりすることをあまり好まぬ」との事であった。とにかく、差し当たり、スカートをブルーマの変えねばと大いに論じた

ころ、遂に職員会議で決めることとなった。今日から思えば正に噴飯ものである。会議では長さは膝頭がかくれる事を厳守するという条件付きでブルーマ使用が許可されたのであるが、上に上げればパンツ式になるがミソで、私は内心快哉を叫んだ次第である。当時排球部には日曜、祭日はなかった。私は日曜日には朝早く出校し1週間分の実験を準備したものである。冬でも次のシーズンに、そなえ練習したが、11月3日のショーキーベチャーの日と正月だけは休んだ。部員と共に頑張りに頑張抜いて勝ち得た近県の優勝旗その他で応接室には賑やかになった。しかし明治神宮外苑での行われた国民体育大会に出場出来なかった事は、いまだに残念に思っている。山本実の熱意ある指導により、尾道県女の名前は排球部と切り離せないまでになった。山本実は後に尾道短期大学の教員になった。

第31回卒業の柏野光代は、尾道東高等学校50年記念誌<sup>8)</sup>の「バレー部の思い出」として次のように語っている。最初にお断り申し上げて置きたいのは、私はバレーの選手ではなくボール拾いの迷子であったことです。(中略)私の部員時代は、恰もバレー部の黄金時代の観がありました。先ず入学すると各運動部から勧誘があり、排球(当時英語排斥その名残り)、卓球、籠球、蹴球、陸上競技、弓道、柔道(?)各種、それぞれ賑やかに入団したものです。皆それぞれセンチメンタルな理由のもとに。曰く。

排球 大根足になるが、体操点には落才なし。

卓球 色の黒くなる心配なし。

庭球 純白のスタイルは少女趣味満点、今ならさしづめ皇太子美智子妃のロマンあやり組。

競技 自信のある人。

弓道 戦時女丈夫型

剣道 同じく女丈夫型及無所属型。

その他あれこれ、がしかしオタマジャクシは蛙にもならず、2年3年と、その終末はいとも哀れでした。がバレー部はその例にもれ、A・Bの2チーム、補欠数名、その他部員若干名計30名はがっちり組んでいました。(中略)

この体制で上下、福山、呉、広島と県下各地へ遠征、よく優勝し栄冠を得たのを覚えています。殊に県東部では、覇をなし君臨していました。野望は何と云うっても神宮行きでした。強敵は確か広島市女、呉県女(三津田)あたりではなかったと思います。立派な体格、機敏な動作は心憎いまで天晴れでした。遂に選抜大会で呉に惜敗した時は悲憤せつなく、折角の悲願も涙と変わってしまいました。

毎日の練習は峻厳そのものでした。雨の日も風の日も続けられました。はしくれ選手の私も大喝一声、よく叱られたものでした。30才を越えた今、ほのかな郷愁を味合っています。空の冴えた日、白いボールがポンポンと音をたてて弧を描く光景は美しく、今も眼底に残り

ます。そして今は故人となられた渡辺校長さん温顔が目には浮かびます。校長さんこそバレー部を育てられた親ではなかったかと。むろん、これに応えられた山本実先生の情熱は申すまでもありません。誇り高きバレー部の名声は、実にお二人方の賜と申して過言ではありませんまい。やがて時代は日支事変から太平洋戦争にと戦いは熾烈となり、スポーツも衰え、若人のエネルギーは遂に学徒動員にと移って行ったのです<sup>8)</sup>。

1937（昭和12）年、1938（昭和13）年には、校内バレーボール大会を開催している。それに学童排球大会も尾道県立高等女学校で開催している。この年に広島県下排球選手権大会で優勝している。学童対象バレーボール大会や校内バレーボール大会を開催できる学内雰囲気や地域社会への影響力を持つようになって県下の大会で優勝できる土壌ができた。1941（昭和16）年には念願の全日本排球大会へ出場を果たした。出場に対し同窓会は、派遣費の補助をしている。

## 5 尾道中学校のマラソンと中国駅伝

### (1) マラソン

1925（大正14）年の開学年に10キロメートルマラソンが全校生徒をあげて、毎年行うようになった。1935（昭和10）年からは、毎週千光寺まで往復3キロメートル、月に1度10キロメートル、年に1度18キロメートルは尾道中学校の名物行事となり、1945（昭和20）年、勤労働員で生徒がいなくなるまで続いた。創立期の先輩の間には、「尾道中ガンバリズム」と呼ばれる気風があったが、それはこのようなスパルタ式の教育のなかで生まれたのであろう。

図1は尾道中学のマラソンコースである。18キロメートルコースは、尾道中学を出発して、山波、高須、藤井川を渡り、西藤、美ノ郷町三成、栗原町亀川、尾道中学校までである。10キロメートルコースは、尾道中学を出発して、防地口、尾道市役所、尾道駅前、桜土手右折、則末、栗原町亀川、尾道中学校までのコースである。3キロメートルコースは、尾道中学校を出発して、千光寺山往復コースである。1939（昭和14）年、中国駅伝大会の中等学校で2位になったのも全校あげてのマラソン大会が基礎になっている<sup>3)</sup>。

### (2) 尾道中学中国駅伝に出場

中国駅伝は、中国新聞創立40周年記念としての行事として考えられた。1931（昭和6）年1月に中国新聞に開催要項が発表された。出場チームは、広島一中、呉オリンピック、広島アスレックス、広島連合青年団、広島商業、広陵中、松本商業、西条農業、西条郵便局、尾道中、広島観音青年団、福山師範、盈進商業の13チームであった。結果は1位 呉オリンピック、2位 広島アスレチック、3位 福山師範、4位 広島一中、5位 広島連合青年、6位 広島観音青年団 7位 広島商業 8位 西条農業 9位 尾道中 10位 松本商業 11位 西条郵便局 12位 盈進商業 広陵中（放棄）であった<sup>13)</sup>。

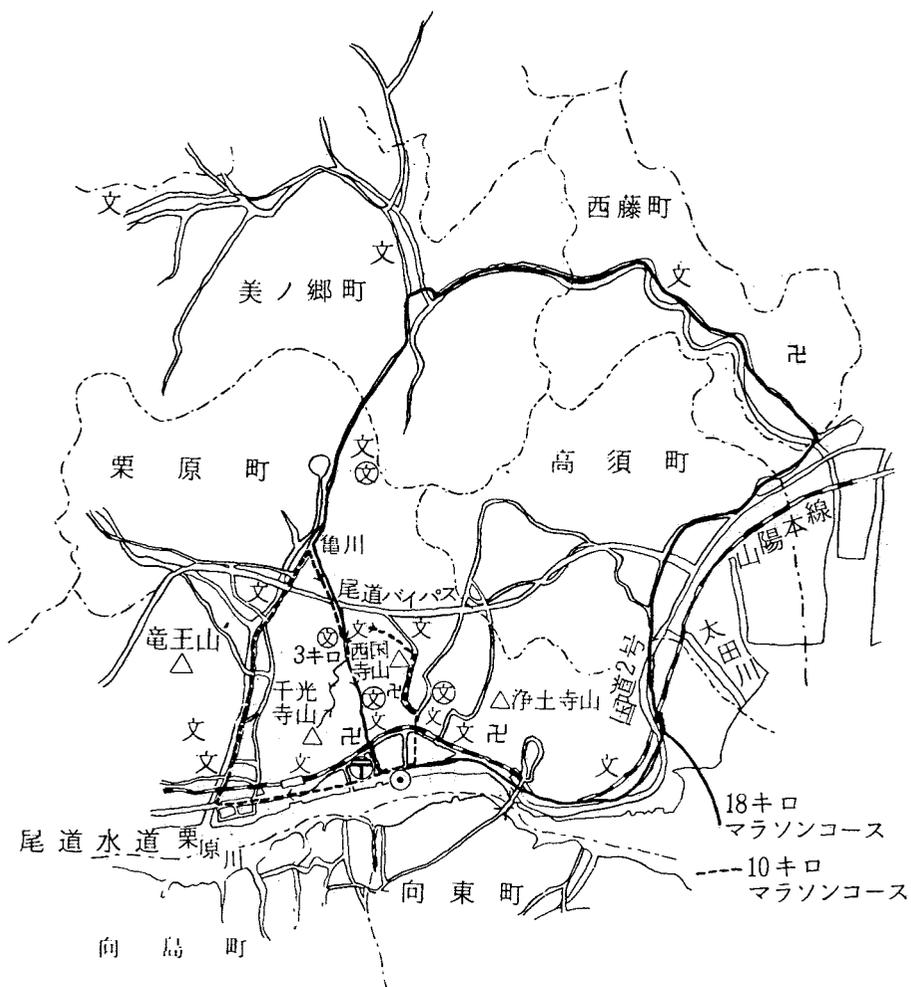


図1 尾道中学校のマラソンコース  
(18キロ、10キロ、3キロ)

尾道北高等学校創立50周年記念誌より

### ① 第1回中国駅伝に出場

尾道中学校校友会誌第参号<sup>14)</sup>における各クラブの年間行事の欄がある。その中の競走部に山根要二郎が第1回中国駅伝出場について、このように記している。

走馬燈の様に目眩しい1年を送りました。昭和5年度！ 昭和5年度！！ 此の1年間に我が陸上競技部が印した足跡は、2月11日の紀元節に行われた中国新聞社主催の第1回福山、廣島間驛傳競走に於いて、我が選手よく奮闘して9等になり得た事である。此處に誌上を通

して選手諸兄もに對して厚く厚く感謝する次第である。尚當日の状況は諸君がよく知っているのので此處では略する<sup>14)</sup>。と閉めている。

## ②第2回中国駅伝

尾道中學校校友會誌第4号<sup>15)</sup>の競技部の年間報告では次の記述がある。我部の活躍は中國新聞社主催福山、廣島間驛傳競走の覇者を目指して第三學期早々より開始された。まだうすら寒い栗原街道を毎日の様に放課後數時間、マラソンの猛練習に依り順調な確つかりとした進歩を見せてゐた選手等は校友諸君にも尚記憶に新たな2月11日地方屈指の猛者團體に伍して、學生チームとしては、彼の長い長距離競走の傳統を誇る、廣一中、亦超中學級の師範學校に次いで第三位を獲得したことは、可成の成績として選手諸君の勞を多とする次第である。

ここから、練習のコースや放課後の練習風景が読み取れ、また、強豪チームの一角を占めていた事が判る。

翌年1932（昭和7）年の第2回福山廣島間驛傳競走で卒業生の箱田文策<sup>15)</sup>の記述がある。それによると、2月11日 この紀元節の佳き日、我等の待望久しき雪辱の日は訪れた。

この日、1年間の苦闘が正しく精算されその血と涙で培った我等の努力が漸く報いられるのだと思ふと我等にただ感激の涙に咽びその意氣は衝天し、力は大地に躍動するのであった。福山驛前廣場で選手一同の紀元節拜賀式を行ひ呉オリンピア俱樂部代表優勝楯返還、宣誓式あった後、うすい冷たい2月の朝風について勢よく、スタートをきったのである。時に午前7時。

この時吾が佐原選手は“日頃の鍊磨いざ物みせてくれん”と余裕綽々として堂々他選手を壓し幾多の緩起伏を突破し、18チーム中13着（學生10チーム中4着）の好成績で松永驛北方の第1中繼所ゴールに入る。

次いで第2區走者服部選手これ又よく力走して練習不足の懸念を去らしめ、剩へ目の上の癌加茂青年をリードする。而もこの區間母校愛に燃ゆる自轉車隊數十の應援に一層力づき難なく尾道驛前の第2中繼所ゴールに入る。

第3區走者は全選手中の倭男木曾選手通ひ慣れた木原街道をひた走りに走る、その走る様宛然達磨のころぶに似たり。されど漸くにして背後に迫った加茂青年は愈々猛烈に迫り遂に木原信號所手前で又リードされる。次いで又、盈進商業に抜かれる。この不幸にもめげず木曾君は漸く本性を表して糸崎に入るや、俄然廣陵をリードし、更にその余勢で十分前の恥辱すなわち盈進商業をリードする。而も先の加茂青年にせまること僅か數十米すぎずかくして波潤に富み、應援團をして手に汗が握らしめた、第3區も漸くにして三原女師前の第3中繼所ゴールに終る。

木曾君苦戦の後を承けて吉原選手、三原地元町民並びに女學生ファン熱狂裡に昇天の意氣

で沼田川新開の直線平坦コースを韋駄天走りに走り、瞬く間に又、加茂青年の六尺男をリードする。而も両者の隔距離數軒に及ぶ、而も第4中繼所ゴールに近づくの元氣益々旺盛なり。蓋し吉原選手こそ吾が尾中の花形ならん。

吉原君善戦の後を承けて古朽者箱田選手名に負ふ十三峠、將又本驛傳の最難關瓦坂の急坂を再び突破せんと昨年の勝手知った松並木の中を應援自働車、並に組友の伴走され乍ら喘ぎ喘ぎに登る小學生が旗を持って一層力付けてくれる。五哩も行ったと思ふ頃、背後に喧しい應援の聲を聞いた。而も猛烈に迫って來てあるらしい此方も必死だ。けれども我が力や劣りたりけん第五中繼所ゴール前約二町の所にて惜しくもリードされる。その瞬間眼に映じたマーク紛れもない加茂青年だ。「失敗った、又やられた」思ふと口惜涙が一度にこみあげて來て穴あれば這へたき心持ちであった。かくの如くにして次の走者木梨選手に譲る。

而も前方走者とは僅かに百米の距離を余すのみ、木梨君胸に充分の成算あるらしく微笑すら浮かべて着々と肉迫する。このコースも距離は比較的短いが第五區に次ぐ難所にて昨年正木選手が悲觀した處、けれど二哩も行かない内に又加茂青年をリードして了った。木梨君益々元氣に瞬く間に數十米の開きをとる。去年應援に出たある爺さんが梅干しを握って後を追驅けた事を憶ひ出し乍ら車中の人々に告げる。木梨君終始調子よく加茂青年との距離數百米にして第六中繼所ゴールに入る。

次いで第7區中繼走者は山本選手。このコースは本驛傳の最長距離十二哩三分の難路。初陣にして弱輩の山本選手、相等のスピードにて西条平野を例の火針みたいなコンパスで走る。と又八本松に近づいた頃、疾風に迫った加茂青年にリードさる。山本君少しも悲觀せず平常の調子でよく耐へ、區間順位も十八人中八位の好成績で瀬野第七中繼所ゴールに入る。

而も瀬野には第二回卒業生の星野態々應援に出られ、吾々選手も一層力付けられた。かくて加茂青年との大接戦裡に遂にラスト区に入る。われには快男子、仁井谷選手有あり。前方との距離僅かに三百米、安藝中野邊の松原にて昨日癒すべく余りに大きな傷手を受けた思ひ出を、いたわり乍ら仁井谷君を勵ます。後方は遙かに距たる。仁井谷君、少しも滲らず層一層へびをかける。けれど相手もさるもの、仁井谷君が迫れば、迫る程頑張り続け、遂に彼に勝ちを譲る。而して午後2時15分55秒、遂に中國新聞社前ゴールに入る。總所要時間7時15分55秒。

かくして戦いは濟んだ。スタートよりゴールに入るまでのはりつめた意氣。いきづまる様な感激の中に我等は榮ある今日の壯舉を豫期以上の好成績で終わった事を心から感謝する。

當日のメンバー並びにタイム、コースは左の如し。

第1區 佐原選手（福山—松永）8哩2分

タイム 47分50秒（13着）（學生5着）

第2區 服部選手（松永—尾道）6哩8分

タイム 41分52秒（12着）（學生5着）

第3區 木曾選手（尾道—三原）8哩2分

タイム 51分46秒（12着）（學生4着）

第4區 吉原選手（三原—本郷）9哩9分

タイム 44分30秒（11着）（學生4着）

第5區 箱田選手（本郷—田万里）10哩5分

タイム 1時間3分10秒（11着）（學生3着）

第6區 木梨選手（田万里—西條）8哩

タイム 50分47秒（11着）（學生4着）

第7區 山本選手（西條—瀬野）12哩3分

タイム 1時間9分13秒（8着）（學生2着）

第8區 仁井谷選手（瀬野—廣島）11哩5分

タイム 1時間6分0秒（11着）（學生4着）

總順位18チーム中10着、學生チーム中4着なり。

#### む す び

この2回驛傳を通しての感想は昨年に比し非常に成績の好かった事。第二應援に大いに力與つた事。就中5年生の有志諸君の伴走。自轉車の應援、第三に練習に眞實だった事等を數えあげる事が出来る。最後に本驛傳は來年もあらふと思ふ。その時こそ優勝楯目ざして、今年以上に尾中マラソン部の名をあげてもらいたい。それには日頃不斷の汗と努力を要する、願はくは選手諸君よ、より一層自重自信せられよ<sup>15)</sup>。

#### ③第2回驛傳マラソンに参加して

第4区走者の3年生吉原憲道は、尾道中學校校友會誌第四号<sup>15)</sup>で、次のようにランナーの立場から高ぶる気持ちを述べている。

時は2月11日の紀元節の佳き日、僕は福山—廣島間驛傳マラソン競走に我が尾中の一選手として参加せんが爲に朝早く家を出た、春未だ淺く、曉風うすら寒むく身に沁む、僕の走區の出發点、第四中繼所三原女子師範前に歩を運ぶ、同所に着けば午前7時と言ふのに用意万端整って、門前の國旗もはたはたと翻へり、爽快なる感をそそった、控室に居る事1時間半餘り。點呼も終り身支度を整へ軽くアップし、只管時間の到來するを待つ。僕の体が群を抜いて小さいのを悲しく思った、驢トップの糸崎入りを報ずる花火に早くも胸は躍る、トップは何處のチームぞ、應援の人々は両側道路に黒山をきずき、選手の走路もないばかりである、急に東に歡聲が揚がった、現れた！ それは廣島アスレチックである。嗚呼、我尾中は今何位を走ってゐる事だろうか。驢又現れた、それは呉オリムピアのランナーである。僕の足は軽く打ちふるひ心は無事大任を果さん事を祈った。

又現れた、それも我が走者ではない。又現れたそれも……何となく悲しく、心細い気がして氣だした、第12位に小さなランナーが現れた、歡呼裡に此方に走って来る、彼は徐々に大きく見え出した、彼の襷は桃色である、更に近づけば、おお!! 彼は待ちに待った我尾中ランナーだ、僕の心身は頓に緊張した。片手を軽く舉げて襷を受取った、前に培する歡呼裡に僕は勇ましく出發した、いざ! 大任今や我が双肩に荷はれたのだ、先を走ってゐるのは加茂青年の走者だ。彼我の差約2分これをどうしても追越さんものと最初からスピードを出した。(中略)

道は見渡す限り單調な道で先を走ってゐるランナーの姿はひとつも見えない。僕の心は宙に浮き、足のみが機械的に動いている。首も腕も人の物の如くである。誰かが怒鳴った「ラストだーッ、頑張れーッ」と。見ると山懐に本郷町の家々が見え初めた。愈々ラストヘビーをかけんものと小さい藪の邊りからダラダラ坂にかけて、死者狂ひの力走! 猛走!! 町内に入れば多くの人々が三原に於けると同じく黒山をきづき、熱狂して僕を迎へた。僕も有らん限り、それこそ必死の猛走で第四中繼所に迫った。“マラソン選手歓迎”と大書した戸板が矢の様に後に飛んだ。一つのカーヴをこすと、おお!! 見えた!! 第四中繼所のゴールか、そして其處には次の走者箱田君が片手を舉げて僕を迎えてゐる、僕は襷をはずした、愈々最後の一瞬! ゴールの白線はスーッと僕の目に吸込まれた様……。僕はゴールの人となり、後より誰かに支られ乍ら、箱田君の四走してゐるのを目撃した。ああ!! 僕の任務は遂!! に終わった。底知れぬ感激がこみあげてくるのを禁ずることが出来ない。神に謝し乍ら、群衆の波をかきわけて或家の縁先に腰を下ろした。一杯のサイダーを飲み干した頃先に抜いた、加茂青年のランナーが觀衆の歡呼に迎えられて走って來てゐる。僕はヨロヨロする足をふみしめ群衆にまじり彼に拍手を送った。

※

聽て12時の下り列車にゆられて廣島についた、市内の或る辻を廻ってゐると、我が第八區の走者仁井谷君が、汗みどろになって力走してゐた。彼のゴールインは第十位で、學生では第四位だった。中國新聞社の前に我が校の自働車がゐたので其處に行つて互いに健闘を謝した。誰かが我が校歌を口笛で吹いた、僕も思わず之に合せて歌った。

“宇内に冠絶瀬戸内海の……。”と<sup>15)</sup>

遂に尾道中学校は、1939(昭和14)年、中国駅伝大会の中等学校で2位の好成績を得た。

このように、第1回と第2回福山広島間中国駅伝の様子を尾道中學校校友會誌に掲載されている。特に第2回の福山広島間中国駅伝は詳細である。開会式の様子から第1区から第8区の最終走者までの競走の情景。さらに区間距離、走行タイム、順位、學生順位等である。第2回の第4区走者の吉原選手が寄稿した走行中の心理状態は、走者でないと書けない文章である。第4区から次の代走者に襷を繋ぐシーンの心情、やがて下り列車に乗って最終ラン

ナーを応援した場面。最後のまとめに、思わず校歌を歌ったシーンの情景は若者そのものであった。

### Ⅲ 戦前の体操から戦後の保健体育への変遷

#### 1. 尾道市立高等女学校から尾道東高等学校までの教科の変遷

教科目は、体操、体練科、体育、保健体育と変遷してきた。創立当時の1909（明治42）年の体操は、体操と遊技から構成されていた。体練科は1943（昭和18）年から1946（昭和21）年までの4年間で、体練科には体操、武道、教練から成っていた。戦後1947・1948（昭和22・23）年に体育に改められた。現在の保健体育は、1949（昭和24）年から保健と体育から構成されている。

では、尾道高等女学校の体操から尾道東高等学校のカリキュラムまで時代の変遷について簡単に触れる。

表1は、尾道高等女学校の「大正2年度（推定）の本科第4学年の時間割である<sup>8)</sup>。1週間の配置時間は、土曜日の午後にも授業がくまれ、35時間を配置している。科目は、国語、英語、数学、地理、歴史、作法修身、体操、音楽、楽器、裁縫、家事、商業教育、図画、習字、插花である。また、教科目の体操が4時間も配置されている。体操は一般体操と遊技から構成されていた。

1921（大正10）年頃の尾道東高等学校50年誌<sup>8)</sup>によれば、当時の体操について氏名不明であるが次のような記事がある。県立移管後はじめて女の体操の先生として上原エミ先生が赴任され、奇天烈ダンスに代わって本格的なダンスを教えていただく様になりましたが、校舎の増築で運動場がなくなり、後ろの山を開いて運動場をつくることになりました。ところが工事がなかなかはかどらなくて運動場のない年月をかなり過ごした様に記憶しています。この頃はようやく女子の運動が盛んになった時代でバスケットボール、バレーボールなどの対抗試合が各学校で行たり、人見絹枝の陸上競技や田村梶川組のテニスの試合ぶりなどが新聞にかきたてられて居りましたのにそういう時流から全く遠ざかっていた様で、スポーツについての可能性は十分に展開されなかった様に思います入学難も就職難もない時でしたから勉強も運動もしごくのんびりとした時代でございました。

昭和初期に赴任した藤田亀六は、職員数25名位で放課後は毎日のように殆ど全教職員が出て、生徒と共にテニスにバレーに弓道に随分楽しく運動したものです。生徒の部活動もしだいにさかんになり、体育はもちろん、音楽に絵画に書道に相当活発に行われました。と旧職員の藤田亀六は50年記念誌に書いている<sup>9)</sup>。

井口朋子（旧姓土屋）は「花嫁はかくて巢立ちぬ」のなかで、運動日も亦周1回テニス、バレーボール、弓、散歩、各々の好みの一時を過ごした。丁度私達が4年（昭和3年）の頃

弓道部が出来た。体操の時間ともなれば作業に早変わり、モッコををかついでせつせと土運びをして運動場上に矢場を作った。石垣の上には萩も植えて春の桜と共に、柔らかな環境がととのった。こうして出来上がった道場に神棚を祭って厳肅な姿となったが、これ等のすべては当時親身になってよく御指導下さった、故山根源四郎翁の御寄贈に預ったものであるという事をつつと後になってきいた。(中略) 1935(昭和10)年卒業(第11回卒業)の岡本知恵子<sup>8)</sup>は、体操や運動をする日を以下のように回想している。「皮靴をはきました。和服に靴。今考えてみるとなんだかおかしいような気持ちがありますが、その頃はハイカラだと思っていました。教練の時は膝のところまで高く袴をくくり上げて歩きます。足音がそろっていました。弓を引く姿は見ていても心がひきしめる重いがしました。ダンスは袴の裾が美しくひろがりました。この在校生の中に卒業生の牡丹の花のようなあでやかな姿がまじり小蝶の羽のように動く袖。ダンス『カルドニアン』運動会をより楽しく美しくしました。」と懐かしく、女学校時代を偲んでいる。

体練科(昭和18～21年まで)は、体操、体練、教練からなっている。1937(昭和12)年から1946(昭和21)年までの行事をみると、1937(昭和12)年には、2月に校内バレーボール大会、7月には向島大町海岸で海浜生活(水泳訓練)、10月に運動会時局に鑑み八社詣でに変更、運動会で薙刀を披露している。

1938(昭和13)年は、2月のバレーボール大会、7月には、向島大町海岸において海浜生活(水泳訓練)、9月は久山田水源地へ郊外遠足、10月の遠足、時局に鑑み八社詣でに変更、11月に体操祭を行っている。1939(昭和14)年には、校内排球・庭球大会の開催、2月に40キロメートル競歩、運動会において軍隊の分列行進を披露。1940(昭和15)年には、2月に40キロメートル競歩、7月に4キロ耐熱徒歩競争、10月25日運動会などの行事を開催している。11月にベルリンオリンピック大会(1936年)の映画「民族の祭典」を鑑賞している。1941(昭和16)年に40キロメートル競歩、7月に4年生の徒歩鍛錬旅行が行われている。1942(昭和17)年には、1月に耐寒駆走、40キロメートル競歩、5月体育大会、排球部は全国大会へ出場。1943(昭和18)年5月勤労作業のため全校生徒モンペをはく、8月休暇

表3 尾道市立高等女学校大正2年  
本科第4学年の時間割表

曜時	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1時	音楽	英語	習字	体操	教育商業	裁縫
2時	修身	修身法	数学	音楽	数学	裁縫
3時	地理	体操	裁縫	英語	図画	裁縫
4時	国語	国語	裁縫	歴史	歴史	体操
5時	英語	地理	裁縫	家事	国語	教育商業
6時	楽器		插花	国語	家事	体操

50周年記念誌より作成

中草刈動員。1944（昭和19）年には運動会中止、尾道市長の要請により校内1.5反の大豆、馬鈴薯、甘藷、裸麦などの栽培計画を立案される。1946（昭和20）年には、4月に運動場3畝歩の開畑、甘藷畑という経過である<sup>8)</sup>。

男子生徒の尾道商業学校と尾道中学校をみると、1937（昭和12）年の全国中等野球山陽大会へ出場（尾道中）。1938（昭和13）年は校内排球大会（尾道商業）、三都駅伝大会優勝（尾道中）。1939（昭和14）年には、盈進中と尾道商業野球と盈進中と対戦し尾商0-4で敗退（尾道商業）、中国駅伝2位（尾道中）。1940（昭和15）年には、水泳部の干潮海水浴場廃止（尾道商業）、弓道場完成（尾道商業）、国民体力検査法による身体検査始まる（尾道商業）。1941（昭和16）年には、グライダー部発足（尾道中）。1942（昭和17）年には、グライダー部芦田川合宿（尾道中）、全国学生滑空大会で優勝（尾道中）、戦場競争選手全校大会へ出場（尾道商業）。1943（昭和18）年には、校庭に400人収容の防空壕を掘る（尾道商業）など軍国的な方向に傾斜していった。このように女子生徒のいる尾道高等女学校や男子生徒のいる尾道商業学校、尾道中学校は、軍事色の強まる方向に流れていったといえるのは時代に応えたものとなった<sup>3)・6)</sup>。

戦後、日本の教育は、民主主義に大きく舵をきった。1947・1948（昭和22・23）年は、体育となった2年間である。1949（昭和24）年から現在（平成21年）まで保健体育で、保健と体育からなっている。

表4は、尾道東高等学校の昭和34年度普通科3学年の時間割である。1週間の配置時間は、土曜日の午前中の4時限まで授業がくまれ、週34時間を配置している。表4は普通科3年生であることから、保健がないのは1年生又は2年生の時に配置されたと思われる。体育実技は週3時間が配置されていた。教科のみの配置でホームルームはない。

表5は、平成21年度普通科1学年の時間割である。1週間の配置時間は、週32時間を配置している。土曜日の授業は配置されていない。保健体育の授業は、1年生で配置され、体育は週3時間を配置している。時代の変化に伴い科目にも変化を生じている。情報化時代に応じ情報、国際化に応じOC（Oral Communication）、LHR（Long

表4 広島県立尾道東高等学校  
昭和34年普通科3年生の時間割表

曜時	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1時	数Ⅲ	英G	英R	日本史	国甲	日本史
2時	英R	物理	日本史	数Ⅲ	数Ⅲ	英G
3時	国甲	地学	芸選	英G	国乙	物理
4時	英選	体育	物理	国乙	日本史	体育
5時	日本史	数Ⅲ	地学	体育	地学	
6時	物理	国甲	数Ⅲ	物理	英R	

50周年記念誌より作成

Home Room)、それに総合的学習が配置されている。

以上のように、尾道市立高等女学校は良妻賢母を育成する学校から、第2次世界大戦後に教育改革により高等学校のカリキュラム編成となって、尾道市民の中等教育の中心的な役割を担い今日に至っている。

## 2. 尾道高等女学校の開校から100年間の保健体育教員

尾道市立高等女学校設立された1909年最初の体操教員は、原田キミ(23歳)で2年間である。原田キミは数学、体操、理科の3科目を担当した。

100年後の2009(平成21)年の担当教員は、浜岡康晴、安部淳子、寅尾陽一、宅明由美、山田和宏、田中健志の6名である。

表6は、体操科、体練科、体育科、保健体育科の開校から100年間の教員名簿である。生徒数や時代の変化により教員数の若干の変動はあるものの教員数は確保されている。100年間の保健体育教員をみると、延べ73名、(男性54名、女性19名)に及ぶ。保健体育担当教員で10年以上継続勤務を勤務年数順にみると、岡本好太郎(20年)、北島マツエ(18年)、田坂 誠・木曾忠子(16年)、掛谷貞士(15年)、中村篤志・渡辺重信(14年)、豊松靖男(13年)、野田和由・石田達生(11年)、石井敏彦・赤木京(10年)の13名である。近年は連続勤務年数が10年を越える教員はいなく、平成14年3月に離任した赤木京が最後で、勤務年数は短期間となっている特徴が窺われる。

## IV 戦後の運動部活動

### 1 広島県総合体育大会優勝校のあゆみ

広島県高等学校体育連盟は1948(昭和23)年に発足した。1年に1回春に地区大会予選を勝ち抜いた団体、個人が広島県優勝を決める広島県総合体育大会が開催される。

戦後、最初の第1回広島県高等学校総合体育大会が開催された。広島県高等学校体育連盟の5校の団体戦の結果表7である。

この表7からみると、第1回広島県総合体育大会の1948(昭和23)年から尾道北高等学

表5 広島県立尾道東高等学校  
平成21年度普通科1学年の時間割

曜時	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1時	数学	芸術	数学	数学	家庭	
2時	世界史	芸術	古典	OC	体育	
3時	OC	古典	世界史	現代文	情報	
4時	家庭	体育	英語I	古典	数学	
5時	数学	英語I	数学	英語I	英語I	
6時	現代史	理科	総学	体育	理科	
7時		保健	L HR			

尾道東高等学校提供

表6 尾道市・県立尾道高等女学校、尾道東高等学校の教科と担当教員

年 度 (邦歴)	教 科	担 当 教 員
1909年 (明治42年)	体操	原田キミ
1910年 (明治43年)	体操	原田キミ 牧田宇三郎
1911年 (明治44年)	体操	牧田宇三郎
1912年 (明治45年)	体操	吉野賢司
1913年 (大正 2年)	体操	吉野賢司
1914年 (大正 3年)	体操	吉野賢司
1915年 (大正 4年)	体操	吉野賢司
1916年 (大正 5年)	体操	吉野賢司
1917年 (大正 6年)	体操	吉野賢司
1918年 (大正 7年)	体操	吉野賢司
1919年 (大正 8年)	体操	吉野賢司
1920年 (大正 9年)	体操	吉野賢司
1921年 (大正10年)	体操	岡本好太郎 市島エミ
1922年 (大正11年)	体操	岡本好太郎 上原エミ
1923年 (大正12年)	体操	岡本好太郎 上原エミ
1924年 (大正13年)	体操	岡本好太郎 吉井常代
1925年 (大正14年)	体操	岡本好太郎 佐々木綾子
1926年 (15・昭元年)	体操	岡本好太郎 佐々木綾子
1927年 (昭和02年)	体操	岡本好太郎 佐々木綾子
1928年 (昭和03年)	体操	岡本好太郎 大西久子
1929年 (昭和04年)	体操	岡本好太郎 大西久子
1930年 (昭和05年)	体操	岡本好太郎 大西久子
1931年 (昭和06年)	体操	岡本好太郎 大西久子
1932年 (昭和07年)	体操	岡本好太郎 大西久子 土居ハヤコ
1933年 (昭和08年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ
1934年 (昭和09年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ
1935年 (昭和10年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ
1936年 (昭和11年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ 井上正喜
1937年 (昭和12年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ
1938年 (昭和13年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ 武田 馨
1939年 (昭和14年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ 武田 馨
1940年 (昭和15年)	体操	岡本好太郎 土居ハヤコ 武田 馨 + 原田
1941年 (昭和16年)	体操	松本照子 武田 馨 原田利治
1942年 (昭和17年)	体操	原田利治 松本照子 尾越和子
1943年 (昭和18年)	体練	原田利治 松本照子 尾越和子
1944年 (昭和19年)	体練	原田利治 尾越和子 恵谷 潔 (教練)
1945年 (昭和20年)	体練	原田利治 平櫛文雄 尾越和子 (教練) 若林美鳥
1946年 (昭和21年)	体練	原田利治 若林美鳥 山田孝士
1947年 (昭和22年)	体育	若林美鳥 石岡保吉
1948年 (昭和23年)	体育	若林美鳥 石岡保吉 藤井眞太郎 北川正人 (分校)
1949年 (昭和24年)	保健体育	井上 強 田辺一士
1950年 (昭和25年)	保健体育	井上 強 水戸八千代 中村篤志
1951年 (昭和26年)	保健体育	中村篤志 水戸八千代
1952年 (昭和27年)	保健体育	中村篤志 水戸八千代
1953年 (昭和28年)	保健体育	中村篤志 水戸八千代
1954年 (昭和29年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1955年 (昭和30年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1956年 (昭和31年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1957年 (昭和32年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1958年 (昭和33年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1959年 (昭和34年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1960年 (昭和35年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ
1961年 (昭和36年)	保健体育	中村篤志 掛谷貞士 北島マツエ



校の卓球団体が1950（昭和25）年まで3年間優勝している。3年間の指導教員は天河義彦である。第2回広島県総合体育大会1949（昭和24）年の卓球団体優勝女子の友成良子、白銀弘子らが活躍した。友成良子は大学や帝人三原の実業団においても活躍した。

第6回広島県総合体育大会1953（昭和28）年の広島県総合体育大会において、尾道北高等学校ラグビー部が初優勝を飾った。国語担当の熊野正は、昭和25年に母校の教壇に立ちラグビー指導に情熱と研究を重ねての勝利であった。尾道北高等学校バスケットボール女子が岡田宗高の指導により狭い体育館で練習に励んだ結果の優勝であった。

第10回広島県総合体育大会1957（昭和32）年、尾道北高等学校のラグビー部は4年ぶりに2度目の優勝を果たした。熊野正のラグビー指導の背景には、母校愛に満ちた情熱と研究心そのものであった。その間、ラグビー部所属の博田東平部員（後の尾道市長）は、応援歌を作詞し、岡谷久司・高橋裕子が作詞した。

第11回広島県総合体育大会の1958（昭和33）年、尾道商業高等学校のラグビー部が大村芳弘の指導によって初優勝を飾った。大村芳弘は、尾道北高等学校を経て母校の尾道商業高等学校に赴任した。ここで地道さと熱意の両面を持ち、次第に生徒の胸の仲に入っていた結果の優勝であった。

第15回広島県総合体育大会の1962（昭和37）年、尾道商業高等学校の男子水泳競技が初優勝を飾った。尾道商業学校を卒業した水泳部OBの林原秀太郎と小山豊郎は母校の水泳部を県下一の水泳部に育てあげた。

第16回広島県総合体育大会の1963（昭和38）年、尾道商業高等学校のラグビー部を率いる大村芳弘が2度目の優勝を勝ち得た。同じく尾道商業高等学校の体操団体男子を藤上俊彦が指導して初優勝した。それに加えて尾道商業高等学校の男子水泳競技は、林原秀太郎と小山豊郎のコンビが指導して2年連続優勝を成しとげた。

第17回広島県総合体育大会の1964（昭和39）年、尾道商業高等学校の男子競泳部が3連勝の優勝を果たした。

第18回広島県総合体育大会の1965（昭和40）年、尾道商業高等学校の男子競泳部が4連勝の偉業を成し遂げた。また、尾道高等学校のハンドボール男子部は、落合雅明の情熱あふれる指導力で初優勝に導いた。なお、尾道高等学校ハンドボール男子部の優勝は、尾道高等学校開校以来の広島県総合体育大会優勝であった。

第19回広島県総合体育大会の1966（昭和41）年、尾道商業高等学校のラグビー部は、大村芳弘の指導で3年ぶりの3度目の優勝の栄冠に輝いた。そして、尾道高等学校のハンドボール男子部は、落合雅明の指導力により2連勝を達成した。後に落合雅明はハンドボール部の指導を行里富保に委ねた。

第21回広島県総合体育大会の1968（昭和43）年、尾道高等学校の男子競泳は、佐々井輝

表7 広島県高等学校総合体育大会(団体・総合)優勝校

個人種目は含まない

回数	西暦(邦歴)	優勝校	優勝種目	指導教員
1	1948年(昭和23年)	尾北高校	卓球団体男子	天河義彦
2	1949年(昭和24年)	尾北高校	卓球団体女子	天河義彦
3	1950年(昭和25年)	尾北高校	卓球団体女子	天河義彦
4	1951年(昭和26年)			
5	1952年(昭和27年)			
6	1953年(昭和28年)	尾道北校 尾道北校	ラグビー バスケットボール女子	熊野 正 岡田宗高
7	1954年(昭和29年)			
8	1955年(昭和30年)			
9	1956年(昭和31年)			
10	1957年(昭和32年)	尾北高校	ラグビー	熊野 正
11	1958年(昭和33年)	尾商業校	ラグビー	大村芳弘
12	1959年(昭和34年)			
13	1960年(昭和35年)			
14	1961年(昭和36年)			
15	1962年(昭和37年)	尾商業校	競泳男子	林原秀太郎 小山豊郎
16	1963年(昭和38年)	尾商業校 尾商業校 尾商業校	ラグビー 体操団体男子 競泳男子	大村芳弘 藤上俊彦 林原秀太郎 小山豊郎
17	1964年(昭和39年)	尾商業校	競泳男子	林原秀太郎 小山豊郎
18	1965年(昭和40年)	尾商業校 尾道高校	競泳男子 ハンドボール男子	林原秀太郎 小山豊郎 落合雅明
19	1966年(昭和41年)	尾商業高 尾道高校	ラグビー ハンドボール男子	大村芳弘 落合雅明
20	1967年(昭和42年)			
21	1968年(昭和43年)	尾道高校	競泳男子	佐々井輝真
22	1969年(昭和44年)	尾道高校	競泳男子	鶴峯 治
23	1970年(昭和45年)	尾道高校	競泳男子	鶴峯 治
24	1971年(昭和46年)	尾道高校 尾道高校	体操団体男子 競泳男子	行里富保 鶴峯 治
25	1972年(昭和47年)	尾道高校 尾道高校	体操団体男子 競泳男子	行里富保 鶴峯 治
26	1973年(昭和48年)	尾道高校 尾道高校	体操団体男子 競泳男子	行里富保 鶴峯 治
27	1974年(昭和49年)	尾道高校 尾道高校	体操競技団体男子 競泳男子	行里富保 鶴峯 治

28	1975年（昭和50年）	尾道高校 尾工業校	競泳男子 体操競技団体男子	鶴峯 治 三浦展廣
29	1976年（昭和51年）	尾道高校 尾道高校	体操競技団体男子 競泳男子	行里富保 鶴峯 治
30	1977年（昭和52年）	尾道高校	競泳男子	鶴峯 治
31	1978年（昭和53年）	尾道高校	競泳男子	鶴峯 治
32	1979年（昭和54年）	尾道高校	競泳男子	佐々井輝真
33	1980年（昭和55年）	尾道高校	競泳男子	佐々井輝真
34	1981年（昭和56年）	尾道高校	競泳男子	佐々井輝真
35	1982年（昭和57年）			
36	1983年（昭和58年）	尾道高校	ハンドボール男子	行里富保
37	1984年（昭和59年）			
38	1985年（昭和60年）	尾道高校	ハンドボール男子	行里富保
39	1986年（昭和61年）			
40	1987年（昭和62年）	尾道高校	ハンドボール男子	行里富保
41	1988年（昭和63年）			
42	1989年（平成 1年）			
43	1990年（平成 2年）			
44	1991年（平成 3年）	尾道高校 尾道高校	ハンドボール男子 アーチェリー	行里富保 川崎一夫
45	1992年（平成 4年）			
46	1993年（平成 5年）			
47	1994年（平成 6年）			
48	1995年（平成 7年）			
49	1996年（平成 8年）			
50	1997年（平成 9年）	尾商業高	ソフトボール男子	村田能一
51	1998年（平成10年）			
52	1999年（平成11年）			
53	2000年（平成12年）			
54	2001年（平成13年）			
55	2002年（平成14年）			
56	2003年（平成15年）			
57	2004年（平成16年）	尾道高校	ラグビー	梅本 勝
58	2005年（平成17年）			
59	2006年（平成18年）			
60	2007年（平成19年）	尾道高校	ラグビー	梅本 勝
61	2008年（平成20年）	尾道高校	ラグビー	梅本 勝
62	2009年（平成21年）	尾商業校 尾道高校	ソフトボール男子 ラグビー	森原 稔 梅本 勝

広島県高等学校体育連盟資料より作成

を中心に鶴峯 治体制で14種目中13種目を制覇して、2度目の優勝を果たした。第22回広島県総合体育大会の1969（昭和44）年から尾道高等学校の水泳部の指導は、鶴峯 治を中心に第31回広島県総合体育大会1978（昭和53）年まで続いた。鶴峯 治転出後に再度 佐々井輝真が復帰して、第34回広島県総合体育大会1981（昭和56）年まで15連勝16回優勝し、尾道高等学校の水泳王国を築いた。

第24回広島県総合体育大会の1971（昭和46）年、尾道高等学校の体操団体男子は、行里富保の指導により初優勝を手にした。練習に練習を重ねて第27回広島県総合体育大会1974（昭和49）年まで4連勝を達成した。第29回広島県総合体育大会の1976（昭和51）年にも優勝し、5度目の栄光を勝ち得た。

第28回広島県総合体育大会の1975（昭和50）年、尾道工業高等学校の体操団体男子は、三浦展廣の指導により尾道高校の5連覇を阻止して、初優勝の杯を手に入れた。また、尾道工業高等学校の初広島県総合体育大会優勝は、この種目が最初で最後となった。

第36回広島県総合体育大会1983（昭和58）年、尾道高等学校ハンドボール男子部は、体操競技からハンドボール部の指導に転じた行里富保の指導によって優勝を飾った。そして38回広島県総合体育大会1983（昭和60）年、40回広島県総合体育大会1983（昭和62）年、44回広島県総合体育大会1991（平成3）年広島県総合体育大会ハンドボール男子において計4回の栄冠を得た。

第44回広島県総合体育大会1991（平成3）年、尾道高等学校アーチェリー女子は、川崎一夫の指導によって、初優勝の栄冠を勝ち得た。

第50回広島県総合体育大会1997（平成9）年、尾道商業高等学校ソフトボール男子部は、村田能一の指導によって初優勝を勝ち得た。

第57回広島県総合体育大会2004（平成16）年、尾道高等学校のラグビー部は、梅本勝の指導によって初優勝を勝ち得た。続いて60回広島県総合体育大会2007（平成19）年、61回2008（平成20）年、62回広島県総合体育大会2009（平成21）年にも優勝して、3年連続優勝し、通算4回の優勝を重ねた。

第62回広島県総合体育大会2009（平成21）年、尾道商業高等学校のソフトボール男子部は、森原 稔の指導を受け初優勝した。

広島県高等学校総合体育大会において、団体優勝した学校名、競技種目、指導教員は、以上の様な結果である。この結果を学校別校にみると、尾道高等学校が延べ30種目、尾道商業高等学校が延べ10種目、尾道北高等学校が延べ6種目、尾道工業高等学校が1種目で、尾道東高等学校は0種目で、合計延べ47種目であった。

優勝種目をみると、水泳が18回、ラグビー9回、体操7回、ハンドボール6回、卓球3回、ソフトボール2回、バスケットボール1回、アーチェリー1回で延べ47種目に及んだ。

優勝を年代別にみると、昭和 20 年代に集中したのは尾道北高等学校が延べ 6 種目、昭和 30 年代から 40 年代初めは尾道商業高校が延べ 8 種目、昭和 40 年代から 60 年代は尾道高等学校が延べ 25 種目であった。平成に入り優勝は遠のき平成 20 年前後に優勝がはじまっている。このように尾道市内の高等学校運動部活動の隆盛は、尾道北高等学校から尾道商業高等学校に移り、それ以後は尾道高等学校の舞台となってきたといえよう。

## 2 尾道商業高等学校の野球部

尾道市のスポーツを語る時、まず尾道商業高等学校の野球が出てくる。尾道商業 90 周年記念要史<sup>6)</sup>から、戦前の野球部に視点を合わせると、1898（明治 31）年、運動奨励のため尾道商業学校に野球部が誕生した。1900（明治 33）年 4 月 18 日 野球部、武術部を置き学内の組織的な活動が展開され始める。1901（明治 34）年 4 月 27 日 校友会創立 1 周年記念武術大会並に野球大会を開催した。

1904（明治 37）年野球部 2 年生の粕谷は、このころの野球部について語っている。「腰には黒帯、足にはゲートルを巻き、スパイクなど気のきいたものはないのでタビをはいた。投手は直球一本やりで、変化球などはつかわなかった。糸崎での試合は応援団こそ少なかったが、忠海中を破ったときには実に痛快であった。マネージャーなどは口ひげをはやし威張っていた<sup>10)</sup>」。1903（明治 36）年の野球部の忠海中のけんかが起きたために、校長は野球部の対外試合をいっさい禁止したことがあった。

1923（大正 12）年 9 月に尾道商業 0-6 盈進中學、10 月に尾道商業 17-0 忠海中學、12 月尾道商業 7-0 誠之館中學に対戦した記録がある。尾道商業学校は大正の終わり頃野球がしだいに盛んになり、尾道でも鶴湾クラブ、尾道実業団などの団体が野球を始めた。

大正の終わり頃野球がしだいに盛んになってきた。尾道でも鶴湾クラブ、尾道実業団などの団体が野球を始めた。尾道商業大正 12 年卒の青木国男らは、誠之館、盈進高などの生徒と太陽クラブをつくり、向島グラウンドなどで練習、ときには、実業団に加わり、試合をしていた。

1928 年（昭和 3 年）11 月 米国で成功した荒谷節夫（明治 37 年卒）は内・外人の混成チームで組織して米国から訪れてきた。同期の三上伊助がむすこの正雄とともに大阪の梅田ホテルに荒谷を訪ね、尾商野球部復活に協力を頼んだ。やがて荒谷らは尾道市を訪れ、地元の鶴湾クラブと模範試合をしたのち、尾商野球部に 1500 円と野球用具一式を寄付した。

1929 年（昭和 4 年）7 月、慶応大野球部腰本監督、水原茂（東映監督）は荒谷の依頼を受け、1 週間尾商野球部をコーチした。

1937（昭和 12）年に林 勲（捕手）、池田善蔵（投手）のふたりのバッテリーで夏の全国大会県予選に安芸の名門、広陵中を破り、山陽大会にでて、優勝戦で呉港中に敗れ、涙をのんだ<sup>10)</sup>。

戦後の尾道商業高等学校の野球部に、1937（昭和12）年にバッテリーを組んでいた林 勲は部長、池田善蔵が監督に就任した。甲子園に向かって母校の野球に厳しさをもって専念した。遂に甲子園に出場の切符を勝ち取ったのは、1958（昭和33）年第40回全国高等学校野球選手権大会であった。甲子園出場は表8の通りである。

林 勲部長、池田善蔵監督のコンビで、1958（昭和33）年、第40回全国高等学校野球選手権大会に初出場した。部長は林 勲、監督は池田善蔵、バッテリーは串畑一竹中であった。1964（昭和39）年、第36回選抜高等学校野球大会に2回目の出場、徳島海南に負けたが準優勝の銀星を勝ち取り尾道商業を全国にアピールした。部長は林 勲、監督は池田善蔵、バッテリーは小川一寺下であった。1967（昭和42）年、第39回選抜高等学校野球大会に出場した。部長は林 勲、監督は池田善蔵、バッテリーは太田垣一清水であった。1967（昭和42）年、第40回選抜高等学校野球大会に出場し、決勝戦で負けはしたが2度目の準優勝に輝いた。部長は林 勲、監督は池田善蔵、バッテリーは井上一清水であった。このように林 勲部長、池田善蔵監督の体制で4回の甲子園出場を果たした<sup>17, 18)</sup>。

次の甲子園出場は、1981（昭和56）年、第53回選抜高等学校野球大会に5回目の出場を果たした。第53回大会の部長は小林陽治、監督は中村信彦、バッテリーは前原一乗越であった。1982（昭和57）年、第54回選抜高等学校野球大会に6回目の出場を果たした。準々決勝まで勝ち進みベスト8位の成績を残した。第54回選抜高等学校野球大会の部長は小林陽治、監督は中村信彦、バッテリーは川上一児玉であった。1986（昭和61）年、第61回選抜高等学校野球大会に7回目の出場を成し遂げた。準々決勝で敗退したがベスト8位の成績で、部長は小林陽治、監督は中村信彦、バッテリーは木村・真治一松原であった。小林陽治部長、中村信彦監督の指導体制において、甲子園に3回出場した。なお、小林陽治部長、中村信彦監督とも尾道商業高等学校出身者で母校の野球指導に厳しさと情熱を傾注した結果であった。

このように甲子園出場は、林 勲と池田善蔵の指導体制で4回、小林陽治と中村信彦の指導体制で3回、甲子園出場は併せて7回出場した。林 勲、池田善蔵、小林陽治、中村信彦

表8 尾道商業高校野球部の甲子園出場一覧表

回数	出場年	大会名	部長名	監督名	バッテリー名
1	1958（昭和33）年	第40回全国高等学校野球選手権大会（2回戦敗退）	林 勲	池田善蔵	串畑一竹中
2	1964（昭和39）年	第36回選抜高等学校野球大会（準優勝）	林 勲	池田善蔵	小川一寺下
3	1967（昭和42）年	第39回選抜高等学校野球大会（1回戦敗退）	林 勲	池田善蔵	太田垣一清水
4	1968（昭和43）年	第40回選抜高等学校野球大会（準優勝）	林 勲	池田善蔵	井上一清水
5	1981（昭和56）年	第53回選抜高等学校野球大会（2回戦敗退）	小林陽治	中村信彦	前原一乗越
6	1982（昭和57）年	第54回選抜高等学校野球大会（準々決勝敗退） ベスト8	小林陽治	中村信彦	川上一児玉
7	1986（昭和61）年	第61回選抜高等学校野球大会（準々決勝敗退） ベスト8	小林陽治	中村信彦	木村・真治一松原

尾商120年誌、尾商野球部史より作成

の4教員とも尾道商業高等学校出身者であることに深い意味があることを特別に記しておく。それは母校愛からきたものといえよう。

### 3 尾道高等学校の水泳部の活躍

国際大会の記録をみると、オリンピック大会水泳で優勝した田口信教が所属した水泳部があげられる<sup>18)</sup>。表9は、尾道高等学校水泳部の活躍した12年の記録である。輝かしい記録をみると、1972（昭和47）年第20回ミュンヘンオリンピック大会において、田口・本田の両選手が出場した。田口信教は200メートル平泳で金メダル、100メートル平泳銅メダルを獲得した。1968（昭和43）年第19回メキシコオリンピックに田口・早稲田選手出場し、田口信教は入賞を果たした。1973（昭和48）年第1回世界水泳選手権大会（ベオグラード）に柳館、原出場した。1974（昭和49）年第7回アジア大会へ柳館、原、中西選手が出場した。1976（昭和51）年第21回モントリオールオリンピック大会に香山進介出場した。また、同オリンピック男子水泳陣で7人が尾道高校学校門下生で独占（田口、本田、柳館、原、樋口、新屋、香山）した。1977（昭和52）年第23回国際水泳競技大会出場（ベルリン）において、日本代表8人中5人が尾道高校（川上、巽、香山、阿部、高橋）で占めた。1978（昭和53）年サンタクララ国際競技大会高橋出場し、高橋は100・200メートル平泳優勝した。第8回アジア大会に高橋が出場した。

全国高等学校総合体育大会水泳の記録からみると、1967（昭和42）年、第35回全国高校総合体育大会水泳競技初出場し第3位になった。翌年1968（昭和43）年、第36回全国高校総合体育大会で初優勝を果たす。それから1971（昭和46）年、第39回全国高校総合体育大会まで4年連続優勝を成し遂げた。1974（昭和49）年、第42回全国高校総合体育大会で優勝し、1978（昭和53）年、第46回全国高校総合体育大会まで5年連続優勝の偉業を成し遂げた。これらの国内・国際大会における華やかな成績は、佐々井輝真、鶴峯 治が先頭で指導した事は言うまでもないが、これを支えた教職員の支援があった。

### 4 戦後各校の運動部活動

5校の広島県総合体育大会の団体、尾道商業高等学校野球の甲子園出場（表8）や尾道高校の水泳部全国大会、国際大会（表9）は省略しているが、表7の再掲も一部ある。

#### (1) 尾道商業高等学校の活躍

尾商90周年史要<sup>6, 17)</sup>等によると、1948（昭和23）年第3回国民体育大会へ拳闘部広島県代表として数名送る。全国選手権大会拳闘部出場した田中は2位、福井は4位に入賞を果たした。1951（昭和26）年に第6回国民体育大会が広島県下で開催さ、尾道市内でソフト

表9 尾道高校水泳部全国体育大会、オリンピック等国際大会における活躍

開催年	大会名	指導教員	備考
1967年(昭42年)	第35回全国高校総合体育大会水泳競技出場	佐々井輝真、 鶴峯 治	第3位
1968年(昭43年)	第36回全国高校総合体育大会水泳競技出場 第19回メキシコオリンピックに田口・早稲田 選手出場	鶴峯 治	初優勝 田口信教入賞
1969年(昭44年)	第37回全国高校総合体育大会水泳競技	鶴峯 治	2連勝優勝
1970年(昭45年)	第38回全国高校総合体育大会水泳競技	鶴峯 治	3年連続優勝
1971年(昭46年)	第39回全国高校総合体育大会水泳競技4年連 続優勝	鶴峯 治	4年連続優勝
1972年(昭47年)	第20回ミュンヘンオリンピックに田口・本田 出場(卒業生) 第40回全国高校総合体育大会水泳競技出場	鶴峯 治	田口信教200メートル平泳金メダ ル、100メートル平泳銅メダル。 2位
1973年(昭48年)	第41回全国高校総合体育大会水泳競技出場 第1回世界水泳選手権大会(ベオグラード) に柳館、原出場。	鶴峯 治	第2位
1974年(昭49年)	第42回全国高校総合体育大会水泳競技出場 第7回アジア大会へ柳館、原、中西出場。	鶴峯 治	優勝 田口、本田(尾道高出身) 出場
1975年(昭50年)	第43回全国高校総合体育大会水泳競技出場	鶴峯 治	2年連続優勝
1976年(昭51年)	第44回全国高校総合体育大会水泳競技出場 第21回モントリオールオリンピックに香山進 介出場	鶴峯 治	3年連続優勝。 モントリオールオリンピック男子水 泳7人尾道高校門下生で独占(田口、 本田、柳館、原、樋口、新屋、香山)。
1977年(昭52年)	第45回全国高校総合体育大会水泳競技 第23回国際水泳競技大会出場(ベルリン)	鶴峯 治	4年連続優勝。 代表8人中5人が尾道高校で占める (川上、巽、香山、阿部、高橋)。
1978年(昭53年)	第46回全国高校総合体育大会水泳競技。 サンタクララ国際競技大会高橋出場。 第8回アジア大会に高橋出場	鶴峯 治	5年連続優勝 高橋100・200メートル平泳優勝

尾道高校資料より作成

ボールとボクシングが会場となった。音体競技の部で長谷部が出場し栄光を獲得した。

競泳をみると、1948(昭和23)年、広島県水泳競技大会において、後藤が平泳ぎ、藤本が自由形で優秀な成績をおさめた。1955(昭和30)年、国民体育大会水泳競技に竹本が出場した。1959(昭和34)年、国民体育大会水泳競技に福岡、赤毛が出場した。1960(昭和35)年に尾道商業高等学にプール完成し水泳競技に拍車がかかってきた。全国高等学校総合体育大会水泳競技8名出場した。1960(昭和35)年、全日本高校水泳選手権大会に小鷹狩軍雄が200mバタフライ2位、東京オリンピック候補補選手に小鷹狩、藤原、沢田が選出された。その他に国民体育大会等においても活躍した。広島県総合体育大会に1962(昭和37)年から1965(昭和40)年まで4連勝を果たし、水泳尾道商業高等学校の伝統を築いた。多田は400メートル自由形で日本代表としてオーストラリアに遠征。1969(昭和44)年、国民体育大会水泳競技に100mバタフライ柳田二三雄は出場した。翌年の1970(昭和45)年、全国高等学校総合体育大会水泳競技にも(100・200mバタフライ)出場した。これらの水泳部の指導に尾道商業高等学校OBで教員の林原秀太郎と小山豊郎があたった<sup>10)</sup>。

体操競技の主な成績をみると、1953(昭和28)年、全国高校体操選手権大会に榊原が出

場、1954（昭和29）年全国高校選手権大会にも榊原選ばれた。1958（昭和33）年、全国高等学校総合体育大会体操団体競技出場した。1963年（昭和38年）全国高等学校総合体育大会男子体操競技出場、国民体育大会男子体操競技に細田、安保が出場した。1964（昭和39）年全国高等学校総合体育大会体操競技部に出場しタンプリング優勝した。また、体操競技部を指導した教員は藤上俊彦であった。

昭和30・40年代にソフトテニスの指導に梶原久己が当たった<sup>6)</sup>。1966（昭和41）年、全国総合体育大会庭球競技に吉田・小林組が出場。1967（昭和42）年、全国高等学校総合体育大会軟式庭球競技に岡崎三子・土井美佐子組が出場し、広島県大会において小林進、田村正憲、牛尾博、河上幸正らが活躍した。

### (2) 尾道東高等学校の活躍

尾道東高等学校50年記念号<sup>8)</sup>、尾道東高等学校80年のあゆみ<sup>2)</sup>等から主な競技成績をあげると、1949（昭和24）年、府中高校開校記念卓球大会において卓球部優勝した。1950（昭和25）年、尾三地区高等学校大会において陸上競技で女子が部優勝した。1951年（昭和26年）国民体育大会に参観、演技の見学、国体旗リレーの見学、国体開催のため高松宮来尾された。1952（昭和27）年、広島県高等学校野球大会決勝戦で忠海高校に敗退（準優勝）し、西日本代表決定戦に出場した。国民体育大会卓球部に吉原重己、蔵本勇が出場した。1953（昭和28年）、全国・西日本・中国大会卓球に舟橋豊幸が出場した。また、広島県総合体育大会において柔道部が準優勝を果たした。1954（昭和29）年、西日本卓球大会・中国大会卓球において舟橋豊幸が出場した。1956（昭和31）年、映画「マナスルに立つ」を鑑賞。西日本・中国大会卓球へ岡田が出場した。1957（昭和32）年、野球部合宿（10日間）を浄土寺、陸上競技部合宿（6日間）を向東中学校、籠球部合宿（4日間）を西郷寺、排球部合宿（6日間）を浄土寺において、それぞれ実施した。西日本卓球選手権大会に中川恵美子、全国高校陸上大会やり投げに鈴木君子、西日本庭球大会に植野啓子と島村明美、全国卓球大会へ中川、西日本・中国卓球大会へ花本と中川、全国高校陸上競技大会・中国大会へ鈴木君子がそれぞれ出場した。また、野球部から大越弘が阪神タイガース、佐藤邦宏が広島カープへ入団した。1958（昭和33）年、広島県総合体育大会排球部B球優勝。全日本高校卓球選手権大会へ中川恵美子、全国高校陸上大会岡田喜久子（80mハードル）、全国高校庭球選手権大会へ植野啓子、島村明美、国民体育大会卓球へ中川恵美子、全国・中国大会陸上競技へ岡田喜久子がそれぞれ出場した。

### (3) 尾道北高等学校の活躍

尾道北高等学校創立50年記念誌<sup>3)</sup>によると、1947（昭和22）年、尾道中学（現尾道北

高等学校)は、三都駅伝に出場し優勝をした。尾道中学(現尾道北高等学校)相撲部は、広島県相撲大会出場して、個人・団体とも優勝し、第2回国民体育大会(石川県)に出場した。1948(昭和23)年、中国駅伝(復活第1回)に参加した。卓球団体男子は、第1回広島県高等学校総合体育大会に出場して初優勝を果たした。その内2名は、広島県代表選手として第3回国民体育大会において団体優勝を成し遂げた。1949(昭和24)年の第2回広島県総合体育大会に卓球団体女子が優勝した。全国大会に水泳で吉原英明が出場した。また、高等学校総合体育大会高卓球競技において、友成良子、白銀弘子が活躍し優勝を果たした。なお、友成良子は大学のインターカレッジでも活躍し、帝人三原に入社後、全日本女子卓球選手権大会で優勝した。

1950(昭和25)年、第3回広島県高等学校総合体育大会卓球団体女子においても優勝した。1953(昭和28)年第6回広島県高等学校総合体育大会バスケットボール女子において優勝した。第6回広島県高等学校総合体育大会ラグビーで初優勝した。1956(昭和31)年、バスケットボール広島県大会準優勝した。7人制ラグビー広島県大会において優勝した。1957(昭和32)年、第6回広島県高等学校総合体育大会ラグビーで2回目の優勝を果たした。指導した熊野正は、母校に赴任し情熱と研究心により部を錬りあげた。1960(昭和35)年に体操部誕生し、1963(昭和38)年の第16回広島県総合体育大会体操競技団体において、女子2部で優勝した。1969(昭和44)年、第22回広島県高等学校総合体育大会バレーボール男子B級において優勝した。1973(昭和48年)ラグビー部広島県選手権1位になった。1974(昭和49)年尾北高校ラグビー部は、中国大会Bにおいて優勝を飾った。1978年(昭和53年)第31回広島県高等学校総合体育大会ラグビーB優勝及び第31回広島県高等学校総合体育大会ソフトテニス男子が2部で優勝した。1983(昭和58)年第36回広島県高等学校総合体育大会ソフトテニス女子2部優勝した。1985(昭和60年)第38回広島県高等学校総合体育大会ラグビーE優勝及び1986(昭和61)年、第39回広島県高等学校総合体育大会ラグビーD優勝した。1998(平成10)年第51回広島県高等学校総合体育大会ラグビーC優勝した。

#### (4) 尾道高等学校

尾道高等学校の運動部は広島県東部地区の強豪校になった。その運動部の活動状況等<sup>18, 19)</sup>から全国大会出場クラブについて次のように記載されている。それに若干加筆する。

水泳部は、1968(昭和43)年から1980(昭和55)年、佐々井輝真・鶴峯治により全国大会優勝11回、多数の個人優勝者を出す。また、田口・早稻田の2人のオリンピック選手を排出する。ソフトテニスは、1968(昭和43)年から1980年(昭和55年)、太田稔の指導により全国大会(インターハイ)へ個人男子4回(1959年は岡本公男と村井英雄、1971年と

1972年は角一二・栗尾元、1973年は亀田秀樹と西谷憲彦）及び女子は1回（1966年は中村澄子・寺山、児玉光江・森岡久枝）出場した。体操部は、1970（昭和45）年～1978（昭和53）年まで、行里富保の指導により全国大会へ8回出場し多数の個人入賞者を出した。ハンドボール部は、落合雅明前監督の後に行里富保は、1980（昭和55）年～2000（平成2）年まで指導し全国大会へ11回出場し、ベストエイト8回重ねた。少林寺拳法は、1975（昭和50）年から2001（平成13）年、榊田光男の指導により全国大会へ5回出場した。アーチェリー部は、1980（昭和55）年～2001（平成13）年まで川崎一夫が指導し全国大会へ9回出場する。陸上競技駅伝部は、1982（昭和57）年～2001（平成13）年まで安富博文が指導し全国大会へ出場した。このように全校大会への出場は、尾道市内高等が校において最多の出場を誇っている。また、恒例学内行事の創作ダンスは、1964（昭和39）年に寺田保の指導で始まった創作ダンスは、1986（昭和61）年まで24回続き、その後中濱泰江に引き継がれている。

#### （5）尾道工業高等学校

1963（昭和38）年の開学から閉校2009（平成19）年迄の44年間の活動の一部を、閉校記念誌の波濤<sup>5)</sup>より体操部、サッカー部、陸上競技部の3部の活動の一端を紹介する。

体操部指導した三浦典廣（在職期間、昭和38～50年）は、開学して間近で体育館がない環境において、1963（昭和38年）年体操部を立ち上げた。当時の練習を津口知幸は波濤において、当時は体育館もなく野外での真夏の炎天下や寒風吹きすさぶ石くれの混じった地面を整備しながらマットを敷き、吊り輪、跳馬などを設置しての練習の日々であった。そんな悪条件でありながらも、開校3年目にしてレベルの高かった広島県総体で見事、優勝を勝ち取ったのだった。我が体操部の歴史に燦然と光り輝く華の一回生の記録だ。と結んでいる。この様な練習から1967（昭和42）年体育館が施工して練習環境は整った。1975（昭和50）年広島県総合体育大会において団体発優勝を果たした。

サッカー部を指導した吉池弘（在職期間、昭和39～49年）は、開学2年目の1964（昭和39）年大崎高等学校から尾道工業高校へ赴任した。当時の練習風景を吉池弘は、波濤に次のように記載している。激しい練習も始まった。選手は今と違い、水分を極力摂らずに耐えた。高見山へのランニング、向島の南側「江の島海岸」での足首、膝強化の砂浜ダッシュ、小歌島の急斜面のダッシュ……。その中で私がストップウオッチ片手に檄を飛ばす“魔の木曜日のインターバル走”は大好き？なようだった。（中略）最後に生徒諸君に感謝の気持ちでいっぱいだ。ありがとう。ありがとう。ありがとう!!! で結んでいる。また、尾三地区高等学校サッカー新人戦において、1965（昭和40）年から1974（昭和49）年まで10連覇の足跡を残した。

陸上部顧問の佐々木千幸（在職期間、昭和46～平成8年）は、波濤において夜間耐久レースを17年も続けて来たと言う。それによると、当時は尾道工業高校のグラウンドは、尾道市内唯一の第五種公認グラウンドでした。その一周300mのトラックを、午後9時に号砲スタートし、翌朝東の空から太陽が昇るまで、チームで一周毎選手交代をしながら走り続けるエンドレスリレーです。保護者、OB等からの差し入れの軽食や飲料を摂りながら、疲労と睡魔に耐えて戦うことを通し、肉体と精神、また自己とチーム力を高めるものです。経験者でないといわえない達成感もありました。その後、平成8年まで、夏休み恒例のイベントとして高配へ引き継がれました。国民体育大会、インターハイに選手を輩出した陸上競技部では、こうした地味な活動を重ねていたのです。

## V 終わりに

各高等学校とも開校当初の教育目的から時代の変化に伴い異なってきたことは事実である。教育目的や目標、教科内容など戦前と戦後は当然のこと事である。本稿では戦前の尾道市内の中等教育、戦後の後期中等教育における、教科や体育及びスポーツ現状を文献から次のように明らかになった。

### 1 戦前の運動活動

戦前に開校したのは、尾道商業学校、尾道高等女学校、尾道中学の3校である。運動会は、3校とも創立後の早い時期に開催している。開校当初から尾道高等女学校及び尾道中学は盛大な運動会を開催していたが、尾道商業学校は運動場が800坪と狭く大々的な運動会の開催は3,000坪に拡大後になってからである。

寒中稽古は、3校とも1月の寒期に武道の寒稽古を10日間程実施している。寒中稽古は、心身の鍛練を目的にしたもので3校とも学校教育で価値ある行事の一つであった。

3校の運動の特長ある行事をみると、尾道商業学校は大遠泳である。明治の40年には大遠泳の記録が残っている。水泳部の遠泳は、山波の西山別館、浄土寺下、旧裁判所（現尾道市役所東側の松本病院付近）から三原市糸崎町八幡神社までの距離を遠泳していた。

尾道高等女学校の運動は、女性らしいバレーボールとテニスに人気があったようである。当時、女生徒の運動に対する見方をみると、排球は大根足になるが、体操点には落第なし。卓球は色の黒くなる心配なし。庭球は純白のスタイルは少女趣味満点。競技は自信のある人、弓道は戦時女丈夫型。剣道は同じく女丈夫型及び無所属型。その他あれこれ組みは、所属する、属さない人をオタマジャクシは蛙にもなれず、と女生徒（乙女）の運動観を表している。

尾道中学校は、なんと言っても校内マラソンである。毎週、千光寺まで3キロメートルのマラソン、月に1度の10キロメートルのマラソン、さらに年に1度の18キロメートルのマラソンと、走る事による身体の強化と精神の鍛練による教育である。走ることから中国駅伝

の基礎を成してきた。1939（昭和14）年には中国駅伝に出場して中等学校2位の成績を残している。

戦前の中等教育における運動は、運動会、寒中稽古があり今日まで引き継がれている行事である。それぞれ各校には自由な雰囲気な活動が展開されてきた。尾道商業学校では遠泳。尾道高等女学校では女性らしいバレーボールやテニス。尾道中学では長距離走（マラソン）であった。

## 2 戦前から体操・体練から今日の保健体育へ

尾道高等女学校の教科からみると、開学からの1942（昭和17）年まで体操科、1943（昭和18）年から1946（昭和21）年まで4年間の教練（体操＋武道＋教練）。戦後の1947（昭和22）年から1948（昭和23）年の2年間の体育。1949（昭和24）年から今日までの保健体育と変遷してきた。大きな変化のあった戦争の反省から、教科内に体育と保健が加わり保健体育となって、体育の教材にスポーツが導入されてきてから60年が経過した。開校から100年の間に体操、教練、体育、保健体育に携わった教員は、延べ73名、（男性54名、女性19名）に及んでいる。

## 3 戦後の運動部の活躍

広島県高等学校総合体育大会の団体優勝及び総合優勝の学校別から、各校が運動部の隆盛が読み取れる。昭和20年代は尾道北高等学校の独占であった。種目は卓球3回、ラビー2回、バスケットボール1回であった。昭和30年代は尾道商業高等学校の独壇場となった。種目は水泳4回、ラグビー3回、体操1回であった。昭和40年代以降は尾道高等学校が覇者となった。種目は水泳16回、ハンドボール6回、体操団体男子5回、ラグビー4回、アーチェリー1回あった。このように年代の運動部活動の繁栄校は、昭和20年代の尾道北高等学校から昭和30年代の尾道商業高等学校へ移り、昭和40年代以降は尾道高等学校の時代となった。

広島県高等学校野球連盟で甲子園に尾道商業高等学校が7回出場したのも快挙であった。春の選抜大会6回（準優勝2回）、夏の選手権大会1回の出場であった。

尾道高等学校水泳部は、第20回ミュンヘンオリンピック200m平泳ぎ金メダリスト田口信教など国際大会へ多数の選手を輩出し、尾道高等学校の名声を博した。

今回の資料を整理するにあたって資料から見えなかった事柄が、1点見えてきた。それは、尾道内で昭和20年代から30年代、40年代の初めに優勝に導いた指導教員は、母校に赴任した教員が頑張った現実があった。尾道北高等学校でラグビー指導教員の熊野正、尾道商業高等学校でラグビー指導した教員の大村芳弘、尾道商業高等学校で水泳指導した教員の林原秀太郎、小山豊郎である。それに高等学校野球で甲子園に出場した尾道商業高等学校林勲、池田善藏、小林陽治、中村信彦である。昭和20年代、30年代に母校に赴任（帰った）

した教員は、母校に愛着、愛情を基礎として指導した結果、運動部を強くし優勝に導いた人達であった。

## 謝 辞

本稿を纏めるにあたり、資料の提供や情報を賜りました砂田勝彦尾道大学事務局次長、田村正憲尾道大学進路支援センター長、渡邊政則尾道北高等学校長、岩本光彦尾道東高等学校長、小林泰宗尾道商業高等学校教頭、間處孝視尾道高等学校教頭、松本達良尾道北高等学校前PTA会長、熊野 正・吉池 宏・寅尾陽一・大田 稔・赤木 京・木曾忠子・落合雅明・小林陽治・三浦展廣の各先生、福島美奈広島県高等学校体育連盟事務局職員、その他の方々に深くお礼を申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 毎日新聞 昭和 14 年 11 月 2 日付（尾商 90 周年史要に掲載）
- 2) 広島県立尾道高等女学校・広島県立尾道東高等学校浦曙会・尾道東高等学校（平成 2 年）80 年のあゆみ
- 3) 尾道北高等学校創立 50 周年記念事業団（昭和 50 年）創立 50 周年記念誌
- 4) 尾道高等学校編（平成 19 年）50 周年記念誌 地域へ 未来へ
- 5) 広島県立尾道工業高等学校閉校記念事業実行委員会編（平成 19 年）波濤
- 6) 尾商同窓会（昭和 53 年）玉の浦辺による船の尾商 90 周年史要
- 7) 尾商校友會誌（昭和 7 年）6 巻第 15 号（尾商 90 周年史要に掲載）
- 8) 広島県立尾道高等女学校・広島県立尾道東高等学校同窓会浦曙会編（昭和 34 年）創立 50 周年記念号 あけぼの
- 9) 広島県立尾道中學校校友会編（昭和四年）校友會誌壹号
- 10) サンケイ新聞（昭和 37 年 12 月 1 日から同 29 日「先輩後輩」に掲載されたものを尾商 90 周年史要に掲載）
- 11) 尾道商業學校校友會（昭和 10 年）尾商校友會誌 5 巻 24 号（尾商 90 周年史要に掲載）
- 12) 尾道商業學校同窓会編（大正 12 年）同窓會報 第 19 号（尾商 90 周年史要に掲載）
- 13) 金柈晴海（昭和 54 年）広島スポーツ 100 年 中国新聞社
- 14) 広島県立尾道中學校校友会編（昭和六年）校友會誌参号
- 15) 広島県立尾道中學校校友会編（昭和七年）校友會誌四号
- 16) 林 勲 思い出の野球尾商野球部史
- 17) 広島県立尾道商業高等学校、広島県立尾道商業高等学校同窓会、広島県立尾道商業高等学校 PTA（平成 20 年）尾商創立 120 周年記念誌
- 18) 尾道高等学校編（昭和 61 年）尾道高等学校創立 30 年のあゆみ
- 19) 尾道高等学校編（平成 15 年）45 周年記念誌あゆみ